



# エフピコレポート2015

FP Corporation Report 2015



株式会社 エフピコ



FP CORP

代表取締役社長兼  
最高執行責任者 (COO)

佐藤 守正

## ごあいさつ

本年度よりエフピコの組織や事業紹介、社会・環境に関するご報告に加えて投資家の方々への情報も含めた総合的な企業報告書を発行することとしました。エフピコという会社が日々成長と発展を続けていくなかで、さまざまな場面で弊社とのかかわりを持つようになる方が増え、よりタイムリーで包括的な情報を提供する必要性を感じるに至った次第です。簡易食品容器の製造・販売、全国規模のリサイクル活動、積極的な障がい者の雇用など、エフピコの顔はさまざまです。こうしたエフピコのすべての顔を知っていただくため、タイトルを「エフピコレポート」とし、包括的な報告書としてエフピコの今の姿をお見せしたいと思います。どうぞ最後までご覧ください。

RPORATION



代表取締役会長兼  
最高経営責任者 (CEO)

小松 安弘

## CONTENTS

### ■ 企業プロフィール (P.3 ~ P.8)

会社概要	3
組織およびグループ会社	5
組織マネジメント	7

### ■ 事業紹介 (P.9 ~ P.32)

製品開発	11
食品容器製造	17
物流	19
販売	21
リサイクル	25
障がい者雇用	31

### ■ 環境における取り組み (P.33 ~ P.40)

エフピコ・エコアクション50	33
----------------	----

### ■ 社会における取り組み (P.41 ~ P.48)

エフピコとフロアホッケー	43
株主とのかかわり	45
消費者とのかかわり	46
地域とのかかわり	47
社員とのかかわり	48
財務データ	49
エフピコのあゆみ	52
編集後記	54



# 企業 プロフィール CORPORATE PROFILE

エフピコは1962年に広島県福山市で創業した簡易食品容器の製造・販売を主な事業としている会社です。しかし、事業の拡大とともに全国規模の企業へと発展し、自社物流や使用済み製品のリサイクルなども行うようになりました。エフピコという現在の社名は創業当初の福山パール紙工に由来します。パール紙とは食品トレーの素材である白色の発泡スチロールのこと。高度成長時代から日本の食文化を陰ながら支え続けてきた簡易食品容器の歴史は、同時にエフピコの歴史でもあります。



福山市曙町のエフピコ本社



エフピコは青をコーポレートカラーとしていますが、パール紙を連想させる白色も多用しています。本社の1階部分は白色トレーのような形と色でお客様をお迎えしています。

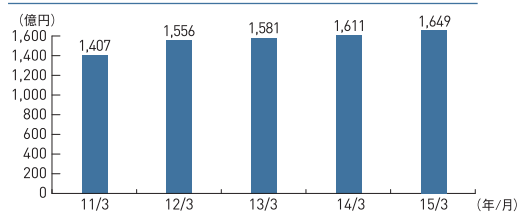
## ■ 会社概要

商号 株式会社エフピコ  
設立 1962年(昭和37年)7月  
代表者 代表取締役会長兼最高経営責任者(CEO)  
小松 安弘  
代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)  
佐藤 守正  
資本金 131億5,000万円  
社員数 757名(エフピコグループ:4,173名)  
事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製  
簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材  
等の販売  
本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号  
TEL 084-953-1145  
FAX 084-953-4911  
東京本社 〒163-6036  
東京都新宿区西新宿六丁目8番1号  
新宿オークタワー(総合受付36階)  
TEL 03-5320-0717  
FAX 03-5325-7811

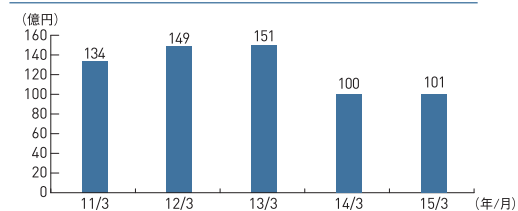


## ■ 主要な経営指標

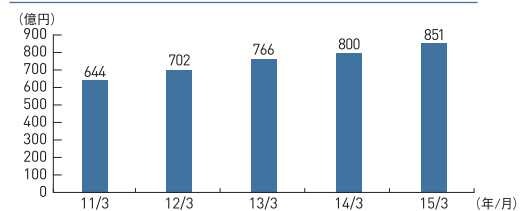
■ 売上高(連結)



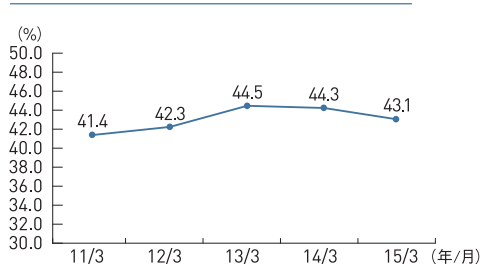
■ 経常利益(連結)



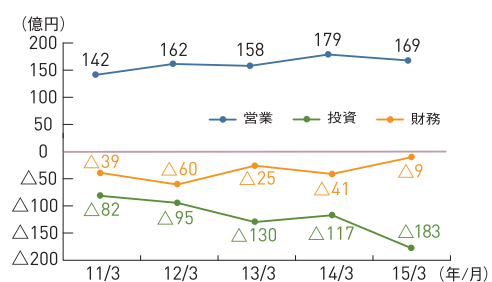
■ 純資産額(連結)



■ 自己資本比率(連結)



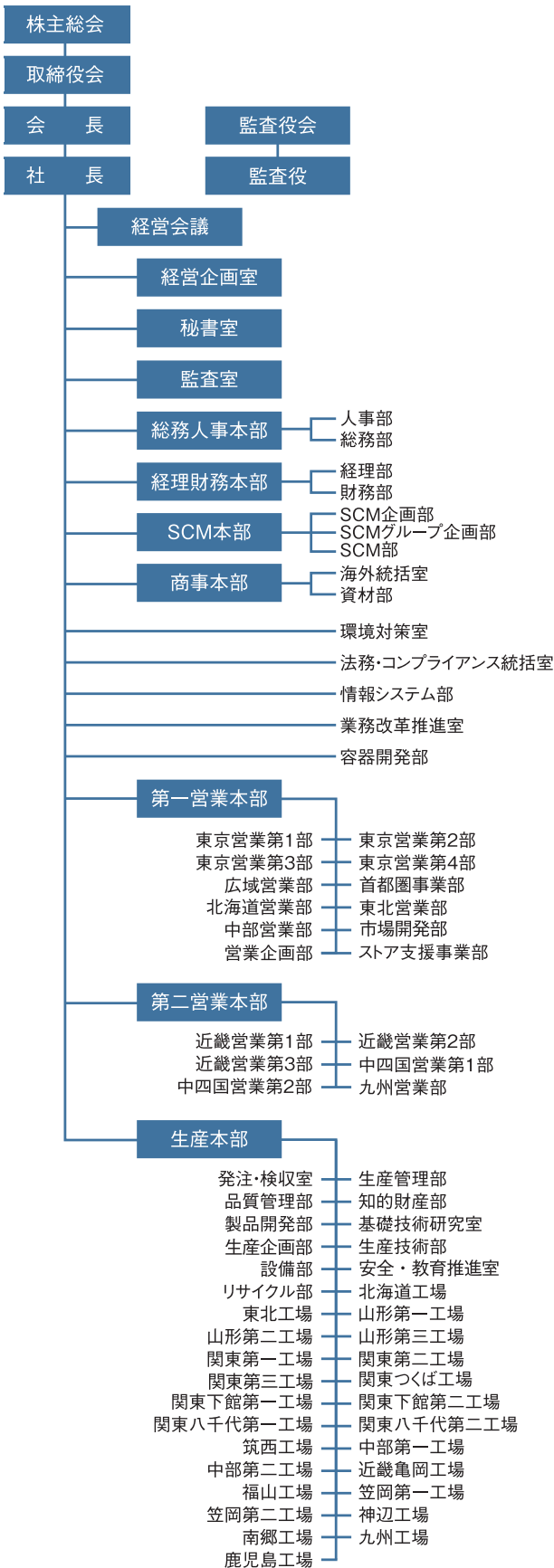
■ キャッシュフロー(連結)



# 組織およびグループ会社

## ■ 組織およびグループ会社

※2015年4月1日現在



## エフピコ グループ会社

### ■ 製造

- ・株式会社エフピコ北海道
- ・株式会社エフピコ山形
- ・株式会社エフピコ下館
- ・株式会社エフピコ茨城
- ・株式会社エフピコ中部
- ・株式会社エフピコ箕島
- ・株式会社エフピコ福山
- ・株式会社エフピコ笠岡
- ・株式会社エフピコ神辺
- ・株式会社エフピコ佐賀
- ・株式会社エフピコ筑西
- ・株式会社エフピコ南郷
- ・株式会社エフピコ鹿児島
- ・株式会社エフピコ寒河江
- ・株式会社ダックス
- ・株式会社ダックス四国
- ・株式会社ダックス佐賀
- ・エフピコ愛バック株式会社
- ・株式会社茨城ピジョンリサイクル
- ・エフピコ日本パール株式会社
- ・エフピコアルライト株式会社
- ・西日本ペットボトルリサイクル株式会社

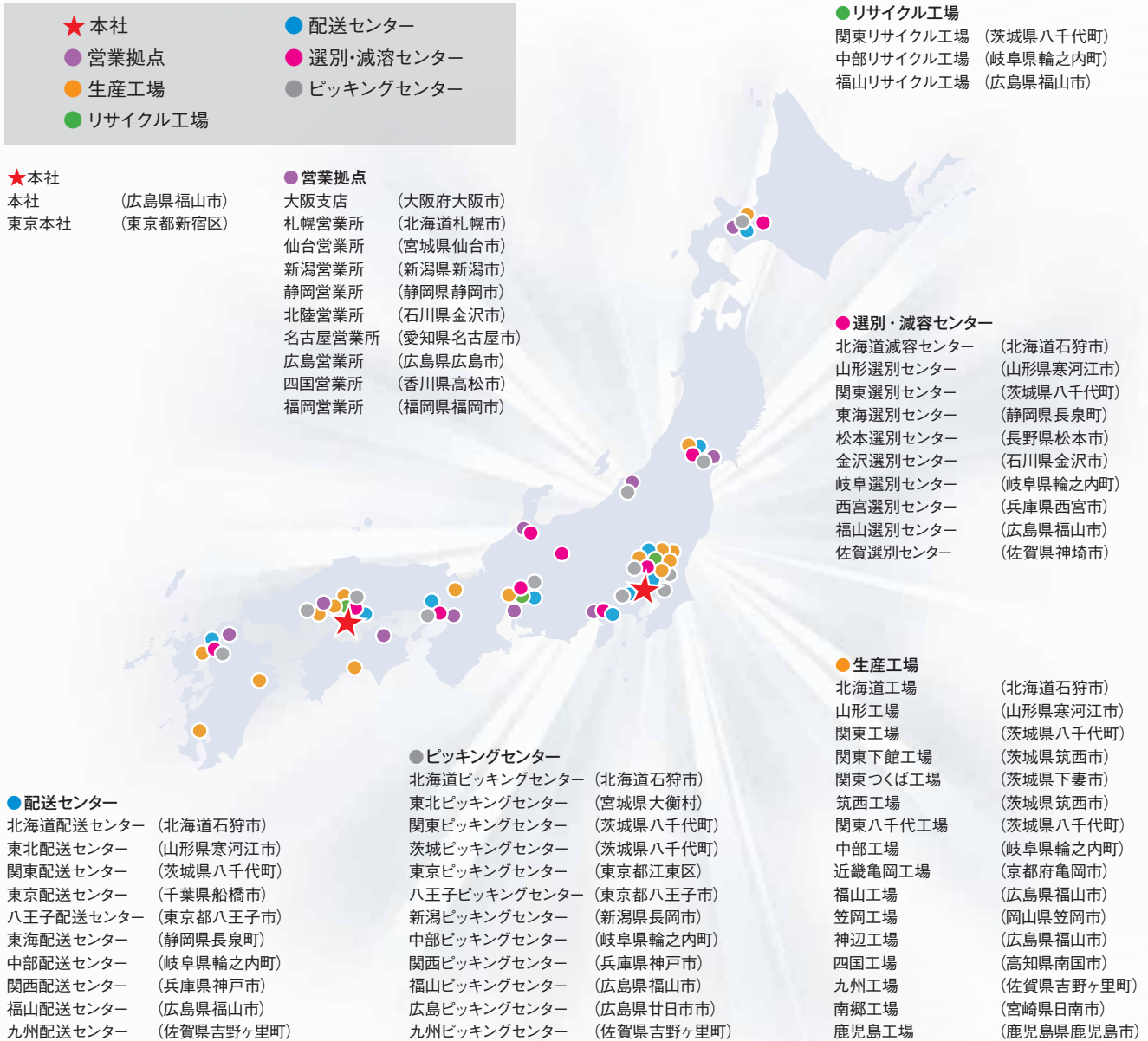
### ■ 物流

- ・エフピコ物流株式会社
- ・株式会社アイ・ロジック
- ・エフピコイーストロジ株式会社
- ・エフピコウエストロジ株式会社

### ■ 販売・その他

- ・エフピコ商事株式会社
- ・エフピコチューパ株式会社
- ・エフピコインターバック株式会社
- ・エフピコダイヤフーズ株式会社
- ・エフピコイシダ株式会社
- ・エフピコみやこひも株式会社

## ■ エフピコグループの生産、物流、販売、リサイクルのネットワーク



### UPDATE 2014-2015

#### エフピコグループ新規加入2社

##### ● 西日本ペットボトルリサイクル株式会社



福岡県北九州市に位置し、年間2万トンの処理能力を有する国内最大規模のPETボトル再生事業者です。エフピコのエコAPET原料の供給体制を確立し、今後九州地区で「ボトルtoトレ」のPETリサイクル事業の重要な拠点となることが期待されています。

##### ● エフピコみやこひも株式会社

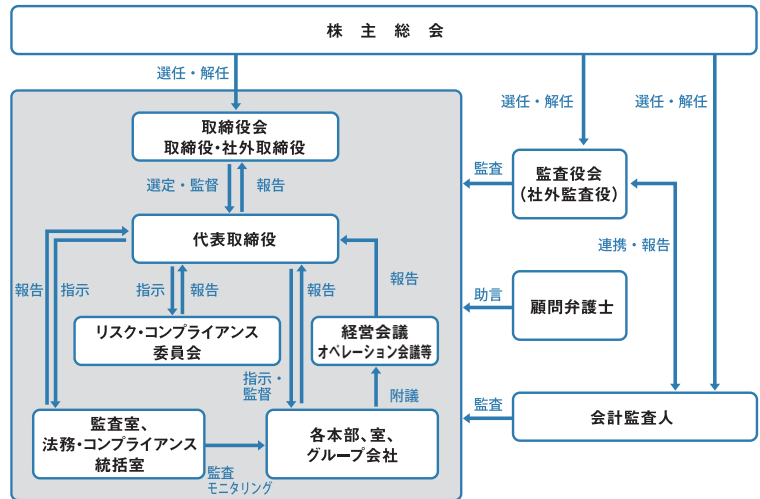


大正10年創業の株式会社みやこひもがグループ入りしました。東京都墨田区に本社を構え、包装用品全般および関連機械の販売卸を行っています。近隣の公園緑化など地域社会との連携による環境保全活動にも力を入れており、エフピコと共通の理念を持った会社です。

## ■ コーポレートガバナンス

エフピコのコーポレートガバナンスは、経営戦略に関する意思決定の迅速化と経営の効率性を高めること、透明性を確保することを基本的な考え方としています。

また、当社を取り巻くステークホルダーより信頼を得て、永続的により企業市民となるため、企業活動の情報開示を積極的に行っています。そのためのマネジメント組織としてエフピコでは「取締役会制度」「監査役会制度」を採用しています。



## ■ コンプライアンス

法務・コンプライアンス統括室が中心になって健全な企業風土醸成のためにさまざまな研修を実施し、コンプライアンスの指導徹底に取り組んでいます。「エフピコグループ行動憲章」と「エフピココンプライアンス行動規範」はコンプライアンス遵守における指針となっています。

### エフピコグループ行動憲章

私たちは、エフピコの経営理念に基づき、法令、協定および社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式(トレー to トレー)、(ボトル to トレー)」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正・透明・自由な競争を行う。
5. 株主や製品の利用者と広くコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 人権と個性を尊重した安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や習慣を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. この行動憲章に反するような事態が発生したときは、全員で問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。

## ● その他のコンプライアンス関連施策

### 内部通報制度

当社グループの社員向けにコンプライアンス全般に係る相談窓口を設置しています。

### コンプライアンス研修

新入社員、管理職候補者を対象とした研修のほか、全役職員を対象としたコンプライアンスセミナーを実施しています。

### 「行動羅針盤」

社員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め責任ある行動を心がけることができるように、社員がいつでも確認できるところに掲示しています。



## ■ リスク管理

人が原因で起きる可能性のある機器の不具合や故障、生産性の低下、労働事故などのリスクと、自然災害によるリスクを想定し、エフピコでは以下のようにさまざまな対策を講じています。普段からの準備と心掛けが、いつ起きるか分からない問題や被害を最小限にとどめることになるからです。

### ● セキュリティゲート

生産・リサイクル工場や物流拠点などが同じ敷地内にある交通量の多い複合施設では、車両と人の入退場管理を行っています。車両のナンバーは入場時に自動で識別されます。



### ● 安全衛生委員会

エフピコでは複数のグループ会社と同じ敷地・施設内で働くため、異なる会社や部門の安全管理者が一同に会しての安全衛生委員会を定期的を実施しています。



### ● 災害時ハンドブック

災害時に決して慌てることなく、迅速且つ適切な対応ができるよう、全従業員が携帯しています。裏表紙には緊急時に必要となる連絡先の情報を掲載しています。



### ● 災害への対応

エフピコグループの工場施設では、定期的に避難訓練や消火訓練を実施しています。繰り返しの訓練により、万が一の事態に備えています。



### ● 情報のリスク管理

情報の二重化、事業継続の確保、セキュリティの強化という分野において、重要データの保管、データの定期的なバックアップ、天災対策としての外部データセンター利用、回線の二重化、社外メールの誤送信回避システムなどを導入しています。



### ● 緊急時対策備品

オフィスや工場にはヘルメットや救急用品などを必要な時、すぐに手に届く場所に配置しています。



### ● 防潮壁の設置

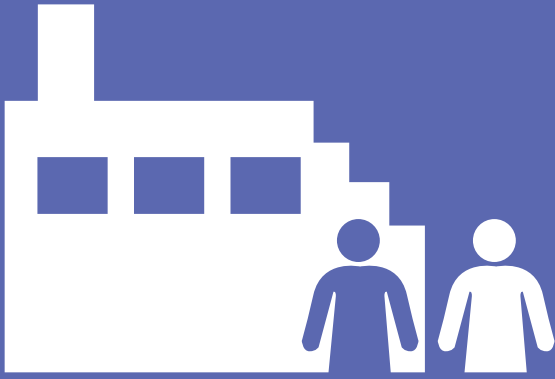
福山湾に面する福山市箕沖町のエフピコグループ敷地では、高波や津波への対策として高さ約2mの防潮壁で三方を囲っています。



### ● オフィスの分散化

災害などの万が一の場合に備え、エフピコでは2本社制(福山と東京)を敷いています。双方が連携し、バックアップ体制が整備されています。





# 事業紹介

## BUSINESS

エフピコは簡易食品容器の製造・販売を主な事業としている会社ですが、そこから派生して自社製品を運ぶための物流事業、使用済みの容器を回収してもう一度使用するためのリサイクル、そして製造とリサイクルの現場で障がい者の人材活用も行うようになりました。さらに製品開発を含めた6つの事業内容は縦割りに存在するのではなく、循環する2つの輪で繋がっています。このふたつの循環する輪がバリューチェーンを構成し、エフピコの発展に相乗効果をもたらしているのです。



このエコトレーには、エフピコの事業内容である製品開発、製造、物流、リサイクル、障がい者雇用のすべてが詰まっています

エフピコはお客様とのコミュニケーションから生まれる製品とアイデアの循環、そして消費者の方々とのコミュニケーションで築く製品リサイクルという循環のふたつの軸を持っています。どちらの事業も製造、販売、物流活動の全国ネットワークが支えています。

### ■ エフピコの循環型事業

ひとつ目の循環は、より良い製品をお客様に提供するための知的財産に関わる製品の流れです。エフピコでは現場主義に重きを置き、販売した製品がどのように使われているかをスーパーマーケットなどの店頭において常にモニターしています。お客様とのコミュニケーションを密にし、製品の改善策や新しい売り方の提案をするためのアイデアを製品開発部門へとフィードバックしています。

ふたつ目の循環は、地球環境保全に向けた使用済み製品のリサイクルです。店頭で回収された使用済み製品を自社物流により運搬し、障がい者の力を活用して新しい製品へと生まれ変わらせます。これはエフピコ独自のリサイクル活動であり、国や自治体とは一線を画す独立したシステムです。



代表取締役社長兼  
最高執行責任者 (COO)

佐藤 守正



## ■ 機能の優位性でニーズに応えるエフピコのオリジナル製品

### ● OPET

#### 世界初の素材

OPETシリーズは、PETを縦・横に延伸して(2軸延伸)分子を配向させることで、強度と耐熱性をアップ。耐油性に加え、透明性を維持したうえでOPS並みの80℃までの耐熱を実現した、世界初の素材です。



### ● 新透明PP

#### 高い透明性

耐熱性・耐油性に優れているので、電子レンジで加熱しても食品トレー容器に変形も穴あきも生じません。また、PP素材は油脂等により劣化せず、食品トレー容器は破損しません。

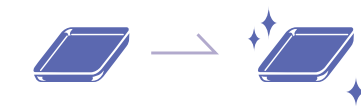


### ● エコトレー・エコAPET

#### 環境対応

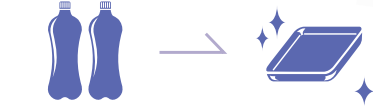


エコトレーとエコAPET(透明容器)はどちらもエフピコが開発した環境対応製品です。回収した使用済み容器からペレットもしくはフレークを製造し、それらを原料としてもう一度新しい製品を製造します。



#### ■ エコトレー

○スーパーなどで回収されたPSP素材(発泡素材)容器の再生品です。何度も繰り返し再生できる循環型リサイクルトレーです。



#### ■ エコAPET

○スーパーなどで回収された透明容器やPETボトルを再び透明容器として甦らせました。何度も繰り返し再生できる循環型リサイクル容器です。

### ● 新機能・新デザインの高付加価値製品

肉、魚、野菜などの生鮮食品を組み合わせてパックし、そのまま電子レンジで調理できる嵌合型製品のレンジパック「蒸せるんです」のほか、漏れ難い、内容物がずれ難い、ツマの削減を可能にする、ボリューム感を訴求する、高級感のある折箱タイプ容器などのさらなる開発と販売拡大を行っています。



### ● マルチFP

#### 高低の温度対応

電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)と、耐寒性(-40℃)を併せ持つ優れた発泡素材です。断熱性にも優れ、電子レンジで加熱しても食品トレー容器の裏側は70℃以下。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。

#### マルチFPの優位性

1. 110℃まで対応可能な耐熱性があり、電子レンジの加熱に適した素材です。
2. 同じサイズのPPF素材製品に比べて、50~60%軽量化されています。
3. 食品トレー容器の底面は断熱形状で熱さが伝わりにくく、中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。



### ● マルチSD

#### 高いデザイン性

電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)に優れている製品です。マルチFPの改良により生まれた非発泡タイプで、成形性にも優れ、非発泡ならではのシャープな形状が特徴です。

#### マルチSDの優位性

1. 脚が高く成形性に優れている非発泡ならではのシャープな形状が特徴で、右写真のような脚が高くボリューム感を見せる設計も可能です。
2. マルチSD容器には、ユニバーサルデザインの蓋を採用しており、開閉がとても簡単です。



## “現場主義”が生み出す時代のニーズを先取りした製品

“現場主義”という考え方は決して珍しいものではありません。多くの企業が実践していることです。ただ私たちは、それを徹底して実践しています。必要があれば一日に何度でもお客様を訪問し、お客様にとっての現場であるスーパーなどの売り場を観察します。売り場で消費者の方々の買い物の様子も見て、改めてお客様のニーズを聞き出します。このルーティンを繰り返すのです。そうした行動により初めて、お客様が困っている問題の核心の部分が見えてきます。

お客様のニーズを理解した後で大切なのは、それを製品づくりにどう生かすかということです。お客様のニーズはあくまでお客様の視点からのものですから、それを市場のなかでどう位置づけ、どのような形で製品づくりに結びつけていくのか。常に時代の先端に立ち、先を見越して総合的に判断しなければなりません。社内で新製品会議を繰り返し行い、営業、製品開発、製造などの全関係者がアイデアや意見を出し合って付加価値の高い、お客様の問題解決に繋がる製品を開発していくのです。先見性のあるアイデアを製品という形にした後は、お客様と相談しながら、その製品を使った販売の実験を行います。この容器をどういう風に使えば、消費者に利便性や楽しさを提供し、食品の売上アップに繋がるのかをテストします。

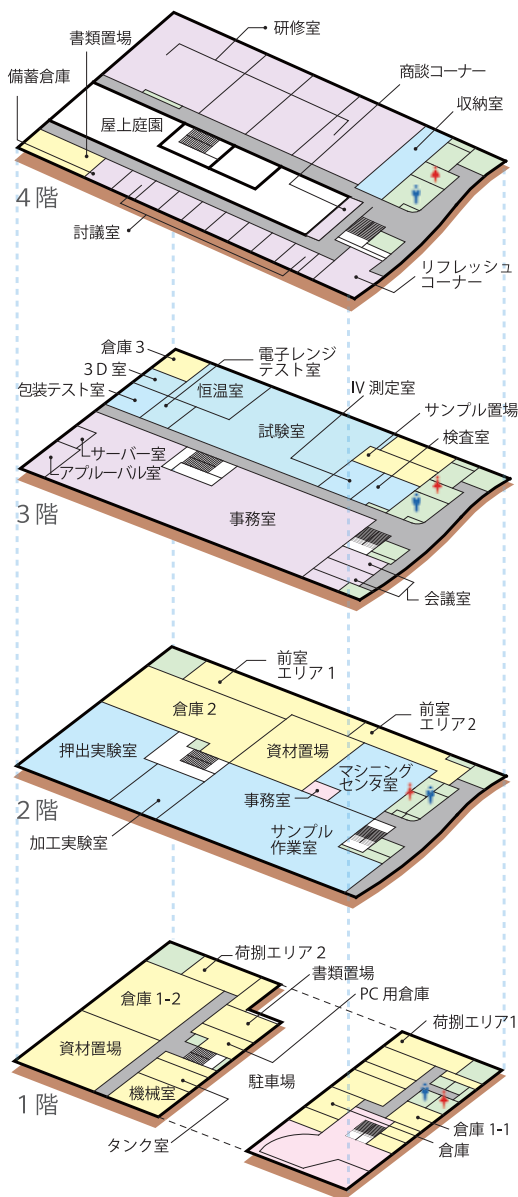
エピコが毎年世に送り出している約2,000もの新製品は“現場主義”という考えから生まれ、消費者の皆様、お客様、そして社会全体に新しい価値を提供しています。



代表取締役会長兼  
最高経営責任者 (CEO)

小松 安弘

## UPDATE 2014-2015



### ● 総合研究所・人材開発研修センター誕生

容器の製造と販売のさらなる発展を遂げるための施設が2014年12月に誕生しました。福山市曙町の本社正面に位置し、地上4階建て、延べ床面積2,022坪の研究開発と人材育成のための複合施設です。建物の中には製品開発部と基礎技術研究室が事務所を構えるほか、人材育成のための大小合わせて12の研修室と討議室があります。製品の研究開発のための各種テスト室、試験室、サンプル作業室なども充実し、最新の設備を備えています。エフピコがこれからもトップランナーとして食品容器業界をけん引していくためにも必要不可欠である施設と設備が整いました。



以前は複数のフロアにあった製品開発部の事務室やデザイン室も見通しの良いワンフロアに収まり、円滑なコミュニケーションの促進にも繋がっています。



飲食の設備も充実した広く明るいリフレッシュコーナー。研修で訪れる多くのエフピコグループ社員も休憩の場として活用しています。

## 製品開発の拠点

本社の製品開発部はここで日々、容器の開発や改善を行っています。デザイン担当が容器の素材、形状、柄などの仕様を考案。それを設計担当が設計データを作成して具現化し、マシンが試作品を作成します。一連の作業が以前よりスムーズに行われ、お客様のニーズに応える高品質な製品が次々と生まれています。何か解決すべきことが生じればすぐに集まって話し合いをすることができるのも、ワンフロアに全てを収めたこの総合研究所の利点です。



## 未来に向けた基礎技術研究の拠点

基礎技術研究室には13名のスタッフが働いています。食品容器に新しい可能性をもたらすための新素材の研究や容器の透明度、硬度、耐熱性、耐寒性、耐酸性、耐油性など製品としてのスペックを高めるための研究が行われています。また、現時点では市場に出回っていない容器の開発など今までとはまったく異なる性質の製品の研究と開発も手掛けています。さらには容器を加工するための技術の研究も行い、日々変化し続ける市場のニーズに対応するだけでなく、エフピコからの提案をするための研究も進めています。



## 人材育成の拠点

4階フロアはすべて人材育成のための施設となっています。研修室は最大500名が収容可能な階段教室にもなりますが、通常はキャパシティの異なる4つの部屋に分かれています。さらに10名程度で使用する討議室が8部屋設けてあり、一度にたくさんのディスカッションのセッションを行うことが出来ます。この研修センターではエフピコグループの社員として身に付けておくべき多種多様な知識と情報の学習、営業スタッフとしてのスキルアップ、日本全国に広がっている生産、物流、リサイクル拠点のスタッフによる情報共有などさまざまなプログラムが行われます。



## ■ エフピコが製造する食品容器

エフピコが製造する食品容器は皆さまの食生活をさまざまな面からサポートしています。食品の生産、加工、流通、販売という過程において、生産地から食卓まで食品をお届けするうえで食品容器は必要不可欠な存在になっています。それは、食品容器を使用することによるさまざまなメリットがあるからです。スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどにおいて安心・安全な食品を消費者の皆さまに提供することを、エフピコの食品容器は陰ながらサポートしています。

……食品容器の“働き”

……食品容器の“機能”





アソート  
メント

肉、魚、野菜などの生鮮食品を組み合わせ、そのまま電子レンジで調理できる時代のニーズに合った製品です。素材のおいしさをそのまま提供できます。

## 精肉



精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつで、スーパーマーケットなどの売り場には不可欠な販売ツールとなっています。

## 鮮魚



鮮魚にも広くトレーが使用されています。付加価値を付けた刺身などには蓋付きの透明容器も用いられ、商品の劣化を防ぐ役割も果たしています。

## 惣菜



蓋付の惣菜容器は利便性が高く、広く活用されています。近年では個食用として少量で販売するための容器も需要が高まり、食べ残しにならないという意味でも社会のニーズにマッチしています。

## 弁当



さまざまな素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。

## 青果物



主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。

## 寿司



一人前から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。容器を傾けても中身がずれにくく、寿司の型崩れを防ぐ工夫も施しています。

## オードブル



パーティーなど“ハレの日”用の食材を盛り合わせるために開発した容器です。大きさや形もさまざまで、用途によって使い分けていただけるようになっています。

## 菓子



団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。

電子レンジ  
対応

コンビニなどでも馴染みの深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。レンジアップ後、持っても熱くない断熱性のある素材も使用しています。

## 汁物



販売店での需要を受けて開発した水漏れしにくい容器。密閉性を高くすることにより水分の多い商品に対応できる工夫がしてあります。

## 鶏卵



透明たまごパックの生産も行っています。再生PETを利用したリサイクル製品です。

スクリュー  
キャップ  
容器

食品に限らず、さまざまな小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。

## 紙容器



紙を使用した蓋付きの弁当容器やテイクアウトフード用の容器です。和の雰囲気演出する時など、食シーンに応じてお使いいただけます。

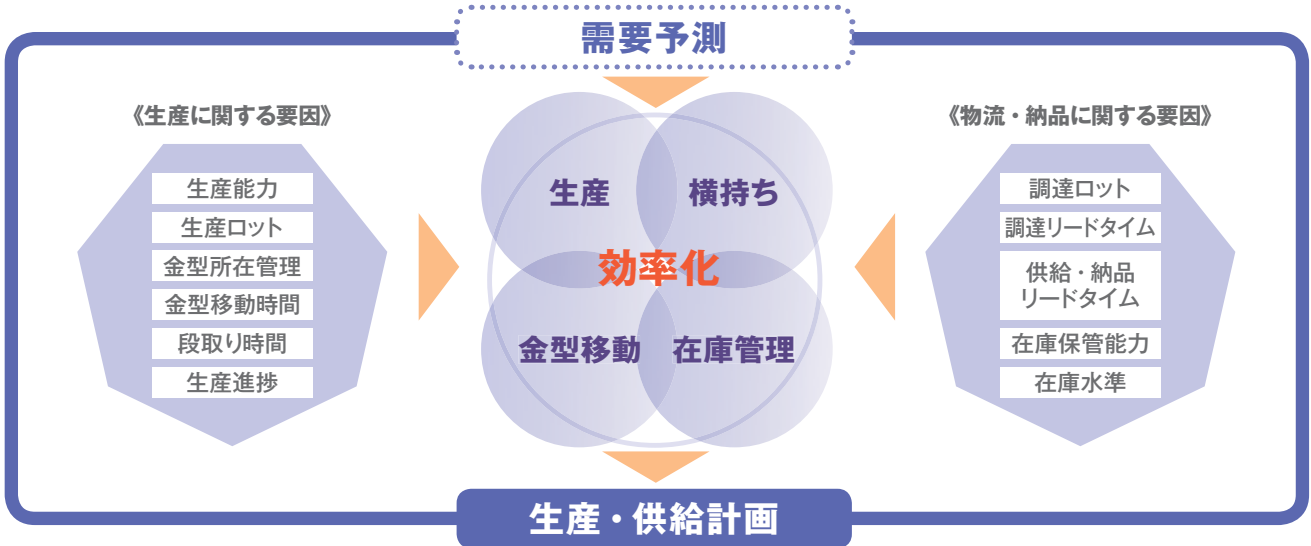
フィルム  
製品

野菜、くだもの、生花などの包装用フィルムです。商品の鮮度を確認でき、商品の形状にかかわらず包装できる利便性が重宝されています。

## ■ サプライ・チェーン・マネジメントによる生産の効率化

エフピコの生産・供給計画の根幹は、サプライ・チェーン・マネジメント(SCM)による中央集中管理システムです。このシステムは、営業チームによる需要予測をスタート地点として、生産と物流などに関するさまざまな要因をインプットしてはじき出される、最も効率的な生産計画とそれに伴う物流計画を立案します。

### サプライ・チェーン・マネジメントシステム (SCM)



## ■ オリジナル製品の生産体制強化

前述のオリジナル製品は着実に市場へと浸透し、お客様のニーズと消費者の満足度を獲得しています。2015年3月におけるオリジナル製品の売上構成は約70%でしたが、さらに拡大をしていく計画となっています。これらの注力製品を継続的、安定的に製造していくため、エフピコでは生産工場の充実・拡大を行っています。この計画は将来を見越してかなり以前にスタートしており、継続して実施している設備への先行投資が拡大生産と安定した物流の基盤をつくっています。

~ 2011年

2012年

2013年

エコ  
製品  
生産能力を  
増強

11月 中部リサイクル  
工場稼働



中部リサイクル工場

12月 同工場でPETリサイクル  
プラント稼働

7月 リサイクルプラント  
2号機稼働

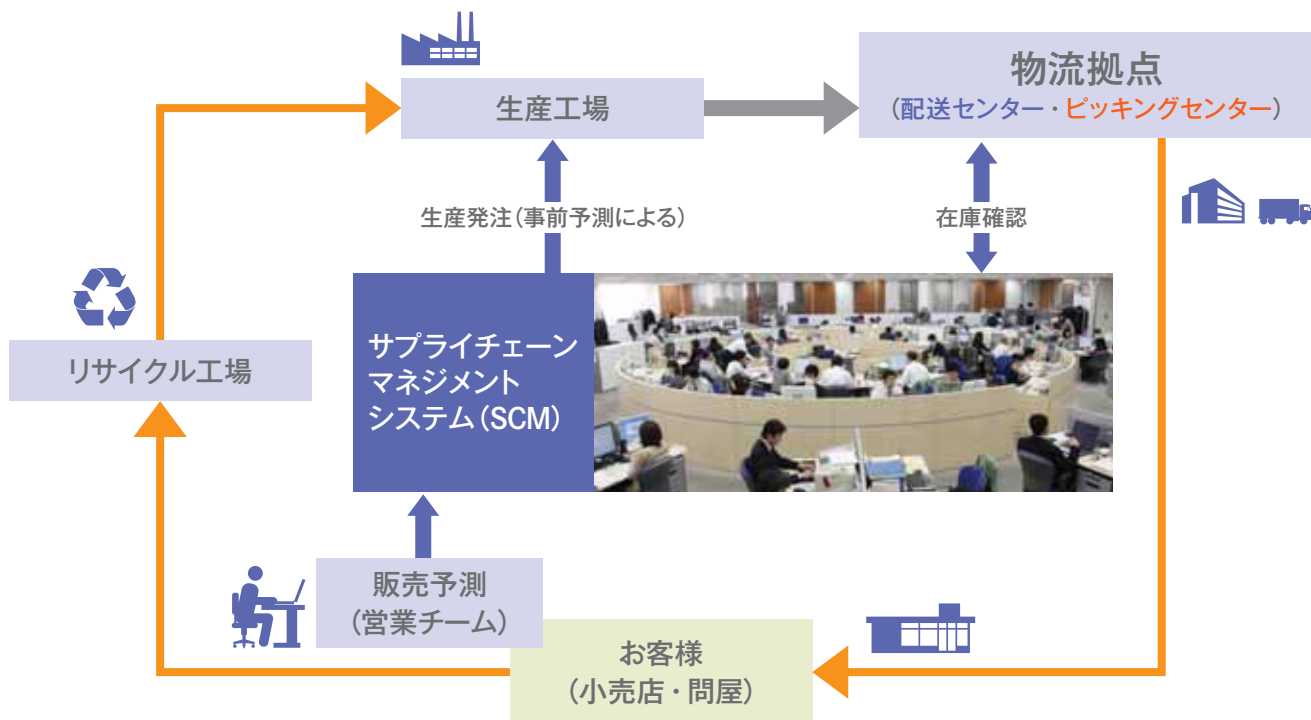
OPET  
製品  
全国の生産工場  
生産ラインを増強

7月 関東八千代工場稼働  
(OPETシート押出1号機・  
OPET成型機7ライン)



関東八千代工場

12月  
OPET製品販売スタート



2014年

2015年

2016年

6月

西日本ペットボトル  
リサイクル(株)取得

3月

中部新工場稼働予定  
(エコAPET製品一貫生産)

4月

関東八千代工場  
(OPETシート押出2号機)  
神辺工場  
(OPET成型機4ライン増設)



中部新工場

3月

中部新工場稼働予定  
(OPETシート押出3、4機・  
OPET成型機4ライン)

全国の物流拠点を拡充

新透明  
PP製品

全国の生産工場で新透明PP生産ラインを増強

## ■ SCMによる在庫・横持ち計画とエフピコ物流による納品配車計画

エフピコの物流システムは生産と同様に、サプライチェーン・マネジメント(SCM)により中央集中管理されています。営業チームによる販売予測、物流チームによる製品ごとの在庫状況、生産チームによる生産のスケジュールなど、すべての情報を吸い上げて集中管理し、グループ会社であるエフピコ物流(株)に在庫・横持ち計画を伝達します。

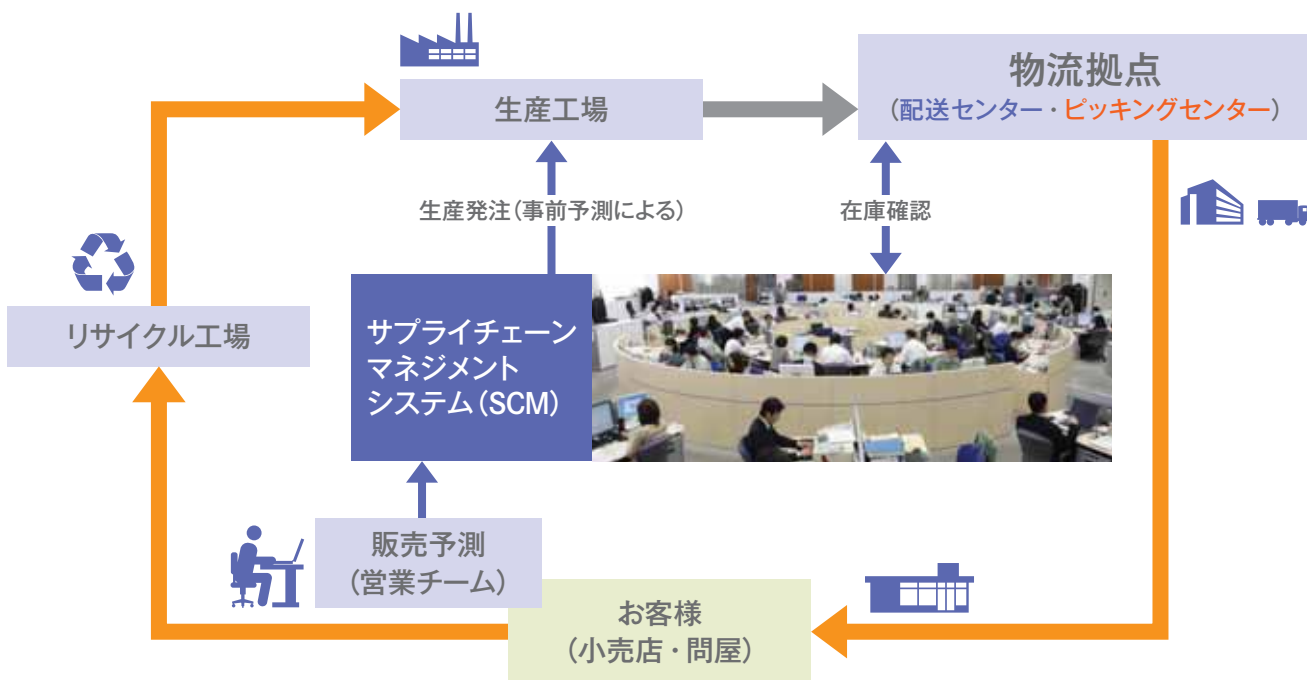
エフピコ物流(株)はお客様からの日々の受注情報をもとに「ルートプランナー」という配車計画策定システムを使い、最も効率的な配車計画を策定し実行に移します。さらに配送のモニタリングを行う「R・Dチェックシステム」により配車業務の見える化を実践しています。

### ルートプランナー

・・・物流計画に沿った配車計画を作成

### R・Dチェックシステム

・・・配送状況をリアルタイムでチェックし配車計画にフィードバック



## [ R・Dチェックシステムの導入と効果 ]

R・D(リアルタイムデリバリー)チェックシステムは2014年の春に導入しました。配送センターのスタッフだけでなく、エフピコの営業スタッフも納品状況をオンライン上でリアルタイムに確認できるシステムです。納品先に到着時、配送日報に印刷されたバーコードをドライバーが携帯電話で撮影することにより、配送実績がリアルタイムでウェブ上に反映されます。ウェブにアクセスすれば誰もが配送の状況を確認できるだけでなく、過去の配送状況も閲覧が可能です。お客様からの問合せにスピーディーに対応できるだけでなく、納品作業中のドライバーへの問合せも大幅に減るため、ドライバーの業務負担軽減にも繋がっています。また、このシステムには配送業務の見える化というメリットもあります。配送計画がどのくらいの精度で実践できたのかをR・Dチェックシステムで確認できるというわけです。このシステムに蓄積されたデータを配車計画を策定するルートプランナーにフィードバックし、より精度の高い配車計画の策定に活かしています。結果としてお盆や年末などの繁忙期には目に見える効果が生まれました。



エフピコ物流(株) センター統括部 佐藤一真

## ■ 自社物流の全国ネットワーク

エフピコはエフピコ物流(株)を中心とした自社による配送センターとピッキングセンターを擁しています。これらの物流拠点は生産拠点までの距離、製品を納品する地域の地理的条件などを考慮して配置され、製造後にタイムロスなく目的地に製品を届けることにより環境負荷の低い物流活動を展開しています。

### ● ピッキングセンター

北海道ピッキングセンター	(北海道石狩市)
東北ピッキングセンター	(宮城県大衡村)
関東ピッキングセンター	(茨城県八千代町)
茨城ピッキングセンター	(茨城県八千代町)
東京ピッキングセンター	(東京都江東区)
八王子ピッキングセンター	(東京都八王子市)
新潟ピッキングセンター	(新潟県長岡市)
中部ピッキングセンター	(岐阜県輪之内町)
関西ピッキングセンター	(兵庫県神戸市)
福山ピッキングセンター	(広島県福山市)
広島ピッキングセンター	(広島県廿日市市)
九州ピッキングセンター	(佐賀県吉野ヶ里町)

### ● 配送センター

北海道配送センター	(北海道石狩市)
東北配送センター	(山形県寒河江市)
関東配送センター	(茨城県八千代町)
東京配送センター	(千葉県船橋市)
八王子配送センター	(東京都八王子市)
東海配送センター	(静岡県長泉町)
中部配送センター	(岐阜県輪之内町)
関西配送センター	(兵庫県神戸市)
福山配送センター	(広島県福山市)
九州配送センター	(佐賀県吉野ヶ里町)



## UPDATE 2014-2015

### ● 福山クロスドックセンター

福山クロスドックセンターは2014年8月に稼働開始しました。福山市箕沖町にあるエフピコの生産、物流、リサイクル拠点の敷地内に建てられ、床面積が約10,260坪という大規模な3階建て施設となっています。同敷地内にある4棟の物流倉庫をソーターで連結し、クロスドックカーカ所で積み込みを行うことによる効率化を目指しました。その結果、トラック1台あたりの出荷(積み込み)時間は約半分に短縮され、それに伴う運送費のコストダウンにも繋がっています。ここから近畿、中国、四国の各エリアへの配送を行っています。



### ● 八王子配送センター

2014年11月、関東地方の新たな物流拠点となる八王子物流センターの稼働が開始しました。本センターは圏央道あきる野インターチェンジから約3分、中央道八王子インターチェンジから約20分という交通の便の良い場所に位置しており、東京都、神奈川県、埼玉県、山梨県への配送効率が飛躍的に向上しました。関東エリアへの供給が茨城県の関東配送センターとの2拠点体制となり、お客様への迅速な対応を目指しています。



## ■ エフピコの提案力

エフピコは食品容器の製造・販売会社ですが、ただ単純に作って売るだけではなく、その使い方に関するさまざまな提案も行っています。お客様(スーパーマーケット)の商品の美味しさや鮮度などを容器を使って消費者にいかにか伝えるかという提案を行っています。全国の営業スタッフが常に売り場を見て、売れている売り場などの成功事例を集めたり、新しいマーケットに対する新しい容器の提案をしています。

### ● 売り方の提案

東京本社と大阪支店にはキッチンスタジオがあり、実際に食品を容器に入れて見え方や取り出し方などの調査をしています。スーパーなどにある冷蔵ケースも設置しており、売り方や売り場のシミュレーションを行い、有効的と判断されれば営業スタッフがお客様へと提案します。スーパーで実践している売り方の工夫がエフピコのアイディアの場合もあるのです。



### ● 使い方の提案

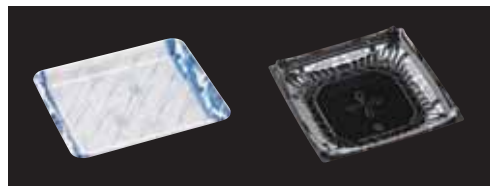
レンジパック「蒸せるんです」の便利な使い方を食品売り場の方に提案する電子ブック「フレッシュ・レンジDeli」を毎月発行しています。また消費者の方々にはウェブサイトでも直接提案しています。



### ● 付加価値商品の提案

エフピコの食品容器にはさまざまな付加価値を持つタイプがあります。以下はその数例ですが、お客様に提供できるメリットとして活用のご提案をしています。

- ・スペースが限られているスーパーのバックヤードで場所をとらない工夫のされた容器。
- ・容器の端で手を切らないよう特に配慮された容器。
- ・回収再処理することでCO<sub>2</sub>の排出を抑えたエコ容器。
- ・水分の多い食品に適した気密性の高い容器。



## ■ 商品提案会

東京本社と大阪支店において定期的に商品提案会を開催しています。主な対象は全国のスーパーマーケットの食品売り場担当の方々。売り上げ増加に効果的な販売方法や売り場づくりに日々格闘していらっしゃる方々です。エフピコが製造する食品容器はそれぞれに使用用途が異なります。その使用用途の特徴をご理解いただき、製品が持つメリットを最大限に生かして販売促進にご活用いただけるよう、売り場担当の方々をサポートしています。

### ● 分析とプレゼンテーション

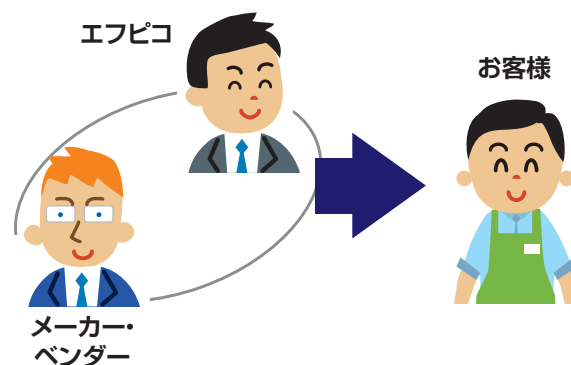
提案会ではまず食品市場やトレンド、売り上げに関する調査の分析などについて発表し、食品売り場の実情との対比でエフピコからの考えをプレゼンテーションします。日本全国でたくさんのスーパーマーケットをお客様に持ち、活きた情報を入手しているエフピコだからこそできるプレゼンテーションです。提案は容器の使い方、惣菜やお弁当のメニュー、季節のイベントに合わせた売り場づくりなど多岐にわたります。



### ● コ・クリエーション型営業の推進

売り場づくり提案はスーパーマーケットなど小売業のお客様との直接的なコミュニケーションですが、エフピコでは今、食品メーカーやベンダー（惣菜、お弁当製造業者など）との協働で食品売り場づくりや市場の創造を行う「コ・クリエーション型営業」を推進しています。例えば調味料メーカーが提供するタレにマッチするベンダー提供の食材を合わせ、それらに合ったエフピコの容器に入れて販売することを提案します。また、この商品の調理方法や売り場の演出方法などもエフピコから提案をします。こうした営業スタイルは売り上げやオペレーションにおいて、お客様に大きなメリットをもたらします。

食品メーカー・ベンダーと協働で食品・売り場・マーケットを創造。



## ■「エフピコフェア」の開催

エフピコは毎年、新年度を迎える前の3月に製品の総合プレゼンテーションである「エフピコフェア」を東京で開催しています。これは一企業の単独開催によるプライベートショーであり、エフピコのエフピコによるお客様のためのトレードショーです。今年度は2015年3月11日(水)～13日(金)まで、東京ビッグサイトにおいて3日間開催し、約14,000人のお客様をお迎えしました。

### ● プライベートショーを開催することの狙い

エフピコがお客様に訴えたいことは単純に“新製品を見てください!”ということだけでなく、“この製品を使ってこんな売り方をしてみませんか?”という売り方の提案がたくさんあります。食品容器を“食品を販売するための入れ物”という利便性だけでアピールするのではなく、消費者の食生活の変化にも踏み込んで考えるエフピコであるからこそ単独で1ホール全部を使用する規模の展示会の必要があるのです。

「エフピコフェア」にスーパーマーケットや包材問屋の方々をお迎えし、東京ビッグサイトの展示ホールの中にスーパーの売り場を何十種類も再現し、限りなく食品販売の現場に近い状況で食品容器の使い方を提案するのがエフピコスタイルです。来場したお客様にエフピコの製品を疑似的な売り場環境の中で体感していただきながらアピールをしています。そのほかにもグループ会社の製品紹介、エフピコのリサイクル活動や障がい者雇用に関する展示も設けています。プライベートショーとして開催しなければエフピコグループのすべてを語りつくすことは出来ず、プライベートショーであるからこそエフピコが展開している事業を一度に体感していただけるのです。





## ● 「エフピコフェア2015」開催報告

今年度のエフピコフェアは「魅せる売り場×食べたくなる商品～新しいマーケットを拓こう!」というテーマのもと開催しました。精肉、鮮魚、青果、冷惣菜、温惣菜、寿司、米飯の各部門で“旬のトレンド情報”、“食品メーカーやベンダーとの共創”、そして“新製品”という切り口で展示を行いました。また昨年大きく取り上げた生の食品素材をアソートしてパッケージ販売する“フレッシュレンジDeli”のコーナーも充実させ、試食コーナーも拡大しました。毎年、新しい製品とともに新しい販売手法やアイデアを提案していますが、今回も盛りだくさんの展示で会場を埋め尽くし、ご来場のお客様にたくさんの貴重な情報を持ち帰っていただけたと思います。



エフピコと食品メーカーやベンダーとの協働によりお客様にソリューションを提供する方式を「チームX、始動。」というタイトルでアピールしました。



レンジパック「蒸せるんです」を使った“フレッシュレンジDeli”のコーナーではさまざまな食材の組合せで試食を行い、付加価値の高い商品としての魅力を存分にアピール。



各部門で新製品を紹介しました。エフピコでは毎年約2,000種類の新製品を発表しており、本フェアがお披露目の機会となります。



外部講師の野菜ソムリエによるサラダの販売方法に関するセミナーも好評でした。社内のアイデアだけに頼らず外部の専門家も積極的に招聘しています。

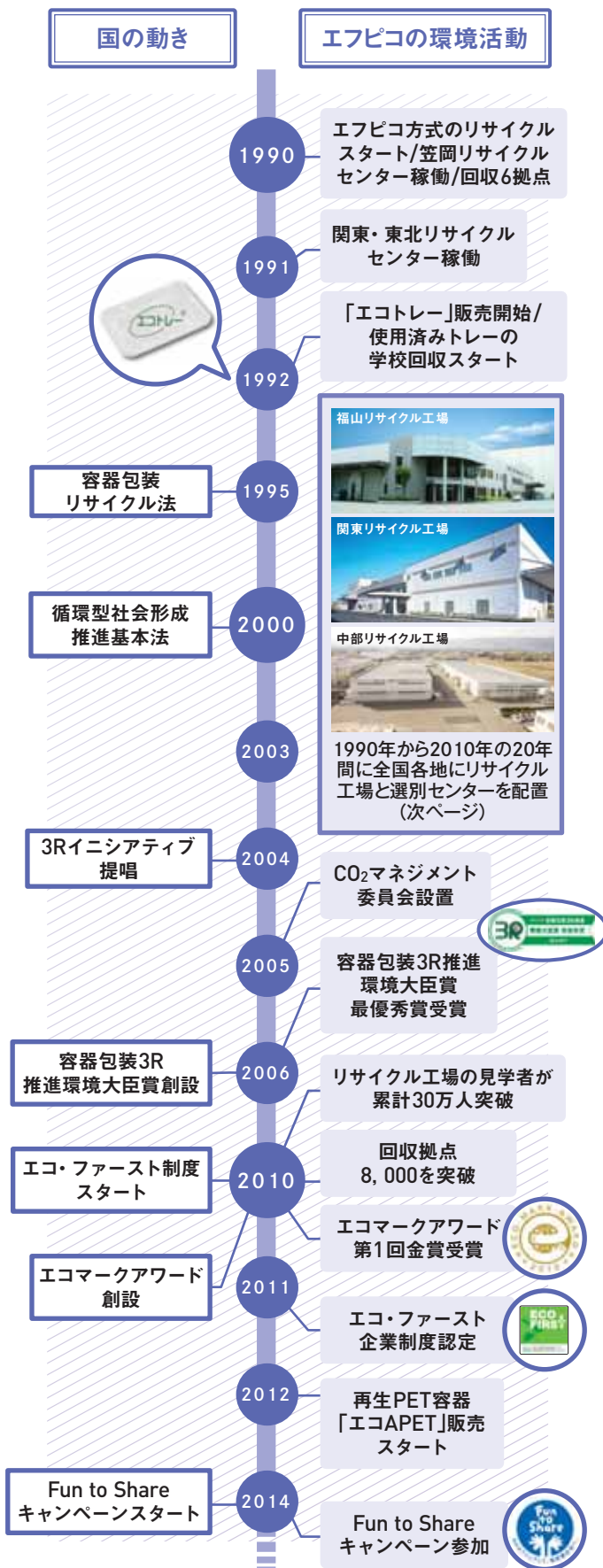


売り場を再現した冷蔵ケースの前は、商品陳列のアイデアを持ち帰るために写真撮影するお客様で常に溢れています。



会場内には広い商談スペースが配置されるほか、新製品のサンプル配布も実施します。

## ■ 循環型社会づくりに向けたエフピコの歩み



エフピコは1990年にわずか6店舗から「エフピコ方式のリサイクル」活動をスタートしました。翌年の10月までに笠岡リサイクルセンター(岡山県)、関東リサイクルセンター(茨城県)、東北リサイクルセンター(宮城県)の3施設を稼働させています(リサイクルセンターは後にリサイクル工場へと名称変更)。

エフピコによる使用済みトレーの回収以前、市民と行政によるリサイクル活動は牛乳パックが主な対象製品でした。その後、1995年に容器包装リサイクル法が施行され、自治体などによりPETボトルの回収とリサイクルを行うようになりましたが、その5年前の1990年にはエフピコ方式のリサイクルがスタートしていました。高度成長期の“使い捨て”時代においてゴミの廃棄が日本各地で問題になりましたが、エフピコはそうした問題に対して即座に対応し、トレーのリサイクルをスタートしたのです。

このエフピコ方式のリサイクルは自治体などによるゴミ回収とはまったく異なる、エフピコという一私企業によるリサイクル活動です。エフピコが生産したトレーや透明容器をスーパーマーケットの店頭など8,400拠点で回収し、全国9ヶ所の選別センターで素材別に選別した後、リサイクル工場へと搬入され再びトレーや容器へと生まれ変わります。

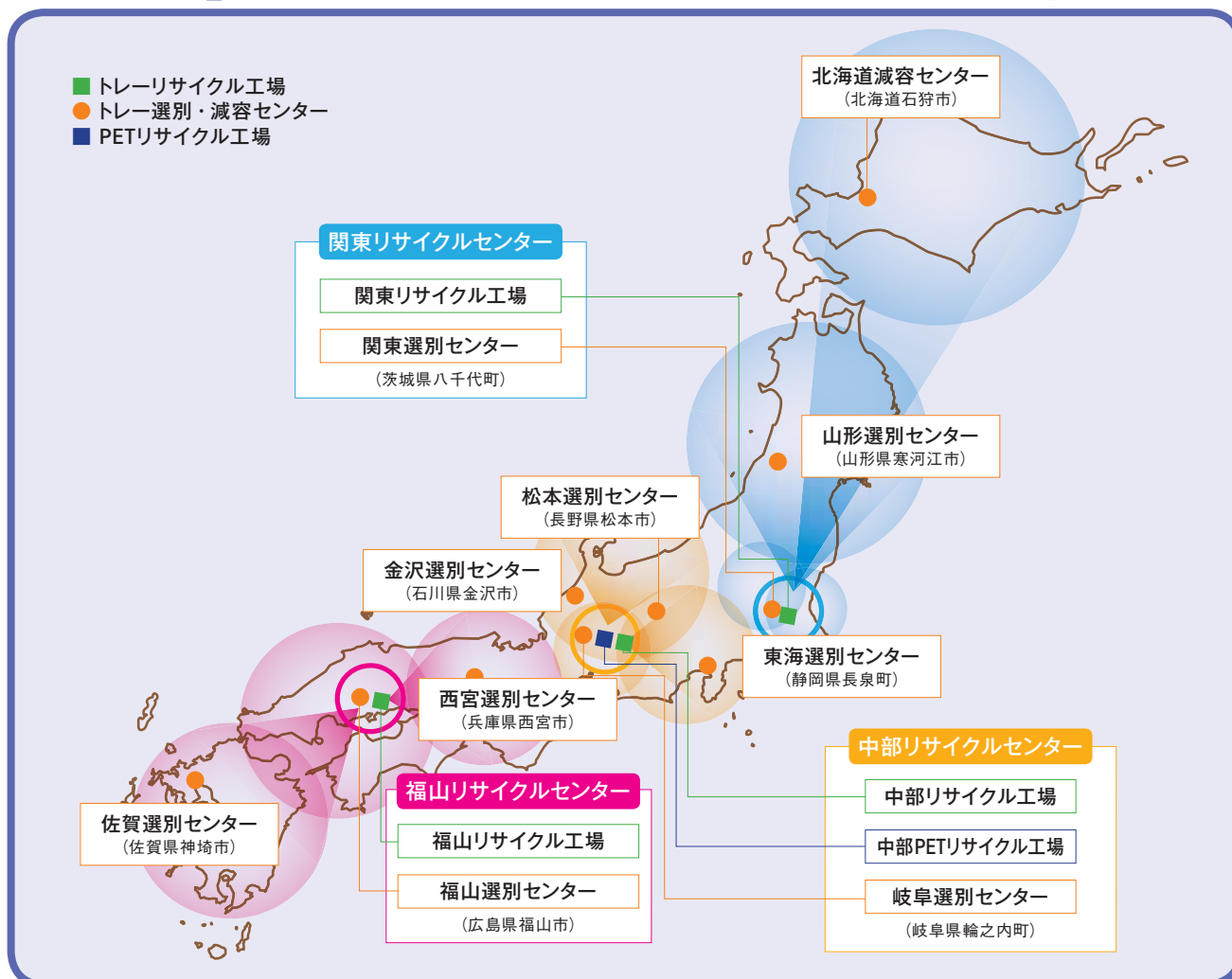
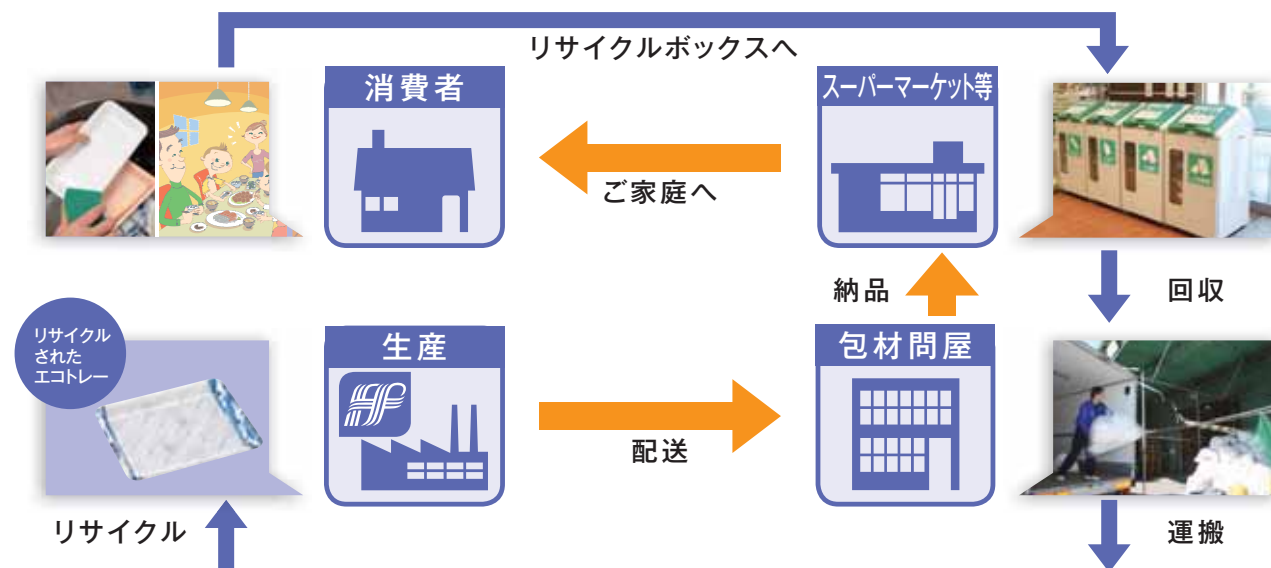
政府や自治体などが環境保全に向けたさまざまな制度やルールを設けますが、エフピコはそれらに先んじて行動を起こしています。一私企業のリサイクル活動ではありますが、国や自治体と協働しながら、エフピコは循環型社会実現に向けて歩み続けています。

### エコ・リサイクル製品認定登録自治体

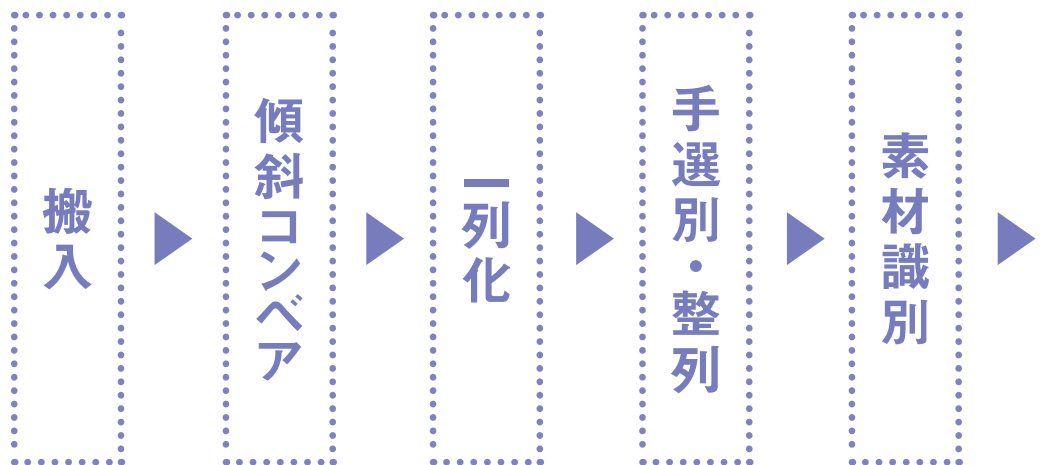
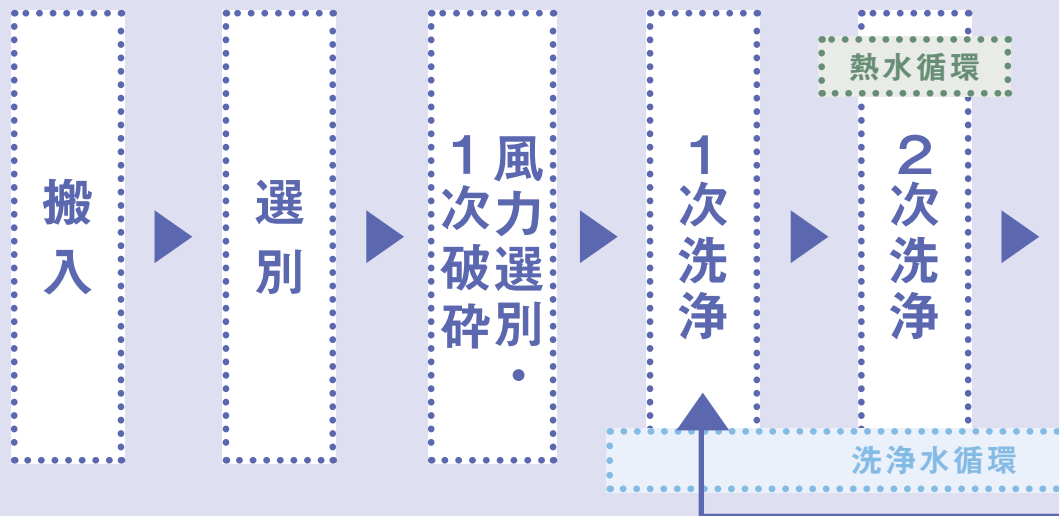
2003年	佐賀県・岐阜県・岡山県	エコトレ
2004年	広島県	エコトレ
2010年	茨城県	エコトレ
2011年	山形県	エコトレ
2012年	北海道	エコトレ
2013年	山形県	エコAPET
2014年	岡山県・茨城県	エコAPET

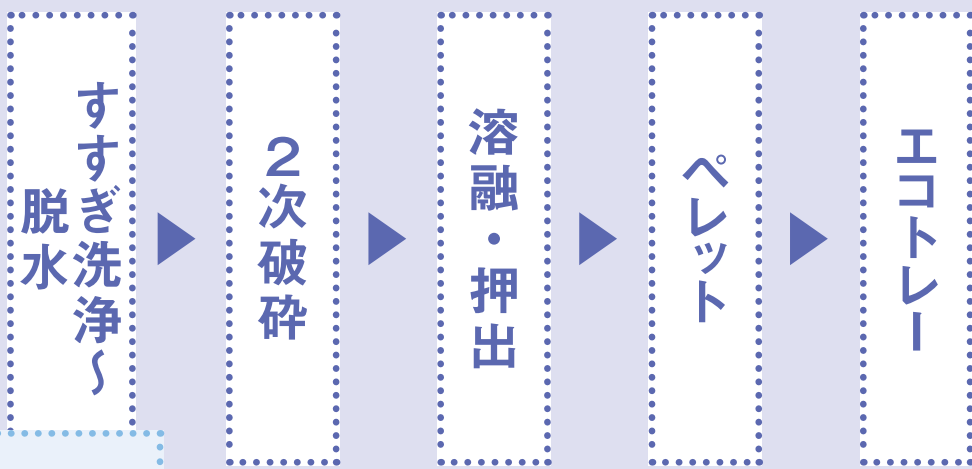
## ■ エフピコ方式リサイクル

エフピコでは、一度使用されたトレーや透明容器を回収し「エコトレー」(再生トレー)・エコAPET(再生透明容器)を生産しています。使用済み製品をエフピコへと戻すこのシステムは、消費者、スーパーマーケットなどの小売店、包材問屋、エフピコの4者が一体となった協力体制で成り立っています。使用済みトレーや透明容器を廃棄せず、回収し再生原料として使用することは資源循環とCO<sub>2</sub>排出抑制のダブル効果があります。



# リサイクル



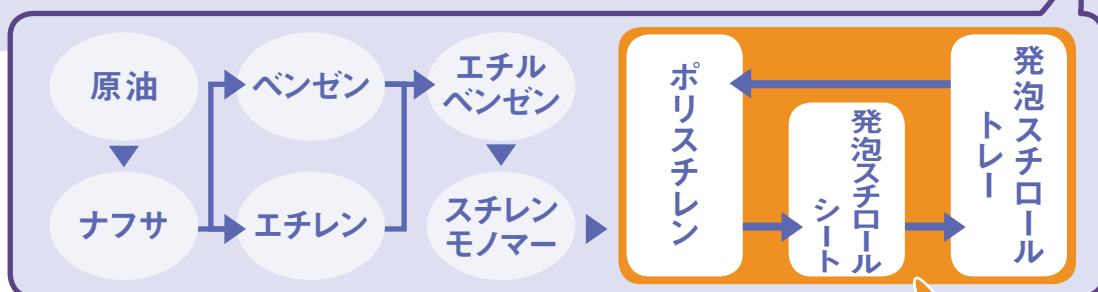


素材選別

OPS

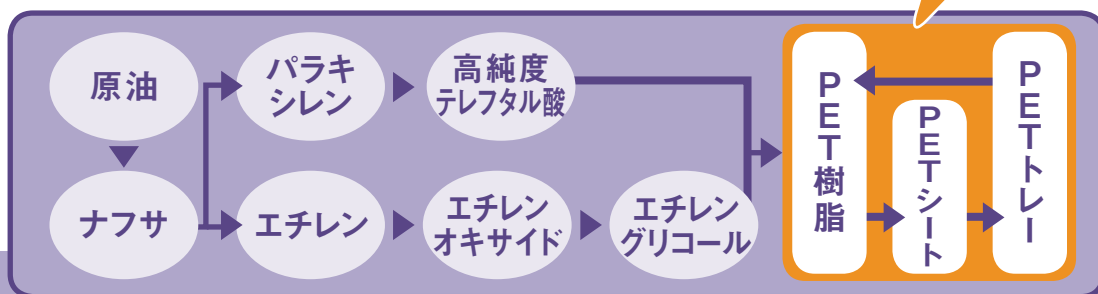
その他

PET



バージン原料から製造した場合

何度でもリサイクル



比重分離・すすぎ洗淨

脱水

昇温

真空リアクター

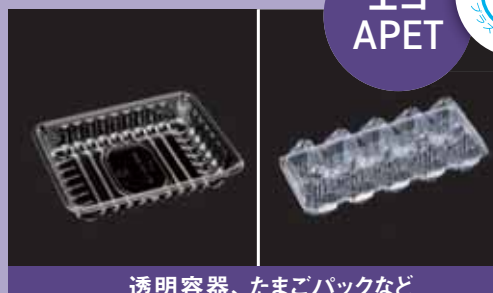
カラー選別

金属除去

食品容器適合  
グレード  
フレーク完成

PET  
容器へ

エコ  
APET



透明容器、たまごパックなど

揮発留分除去工程

浄工程

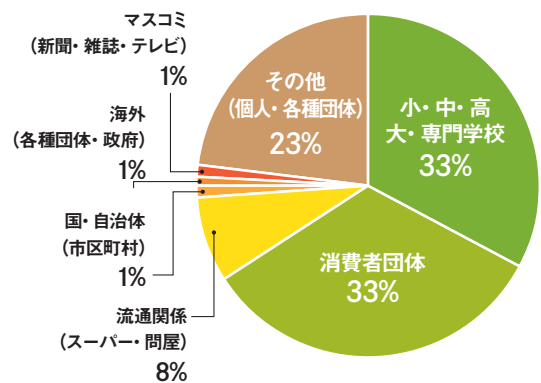
# リサイクル

## 工場見学の受け入れ

使用済み容器のリサイクルをさらに推進するためには、リサイクルを行うことによる効果をご覧いただくのが最も有効であると考えます。そこでエフピコは全国9カ所のリサイクル拠点をすべて公開しています。

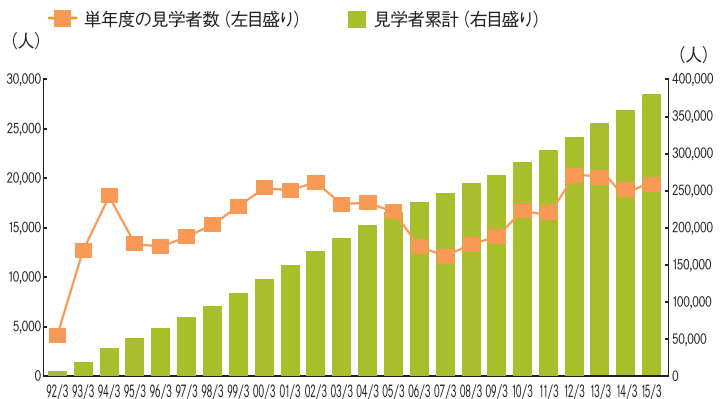
### 見学者の内訳

リサイクル工場や選別センターを見学に来る方々は多種多様ですが右のグラフの通り、学校関係者と消費者団体がその多くを占めています。使用済み容器の回収拠点であるスーパーなどの流通関係者や自治体の方々にももっと来ていただき、エフピコ方式の4者一体による協力体制をさらに強固にしたいと考えています。



### 見学者数の推移

過去直近10年の平均では年間に約2万人の見学者にご来場していただきました。実際に工場をご覧になった皆さんの感想は「驚いた」というものが多く、「これからはもっとリサイクルを心掛けたい」という気持ちを持つようになっていただいています。エフピコでは下記の9カ所で工場見学を受け付けています。使用済みの食品容器やPETボトルが生まれ変わっていく様子をぜひご覧ください。必ず新しい経験と発見があるはずです。



## 工場見学の申し込み受け付け

見学受入日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:00（各工場共通）  
ホームページからもお申込みいただけます。

<リサイクル工場> 選別された容器が再生原料(ペレット)になるまでをご覧いただけます。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり最大受入人数
関東リサイクル工場 (関東選別センター併設)	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400	120名
中部リサイクル工場 (中部PETリサイクル工場・岐阜選別センター併設)	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2036	60名
福山リサイクル工場 (福山選別センター併設)	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	福山リサイクル工場 084-957-2301	130名

<選別センター> スーパーなどから回収された容器を選別する様子をご覧いただけます。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり最大受入人数
山形選別センター	〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地	山形選別センター 0237-85-3645	20名
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1	東海選別センター 055-980-4571	20名
松本選別センター	〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター1丁目98-2	西宮選別センター 078-907-1288	45名
佐賀選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1	佐賀選別センター 0952-51-1028	30名

見学プログラムの一例(計:約90分)

- リサイクルの流れの説明(10分)**  
工場のエントランスで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
- リサイクル工程の見学(30分)**  
容器が運ばれてくる場所からペレット(トレーの材料)になるまでをご覧いただけます。
- プレゼンテーション(25分)**  
エフピコが行っている食品容器のリサイクル事業を詳しく説明します。
- 説明ビデオ(15分)**  
プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧いただけます。
- 質問タイム(10分)**  
見学者からのさまざまな質問にお答えします。

## ■ リサイクル活動の成果

	トレー		透明容器		PETボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2014年度	6,375トン	15億9,000万枚	1,815トン	1億8,150万枚	23,449トン	7億8,160万本
累計 (1990年～ 2015年3月)	11万9,847トン	299億6,200万枚	7,821トン	7億8,210万枚	74,954トン	24億9,840万本

### 社会的な波及効果

今までに節約した地球資源

石油の量:  
約3億9,970万リットル



ドラム缶  
約200万本分

今までに節約した社会的コスト

ゴミ回収費:  
約557億円



回収車  
約223万台分

今までに回収した量



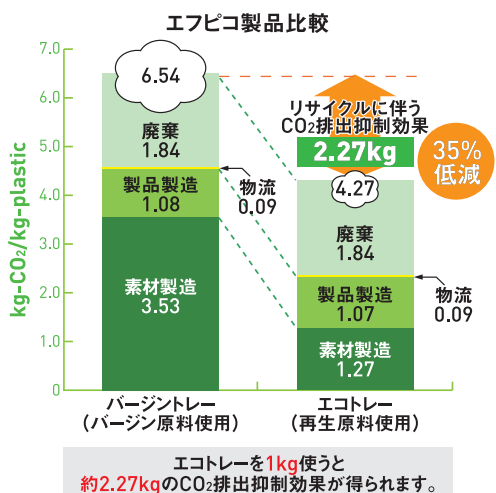
東京ドーム  
約33杯分

2014年度に削減したCO<sub>2</sub>の量

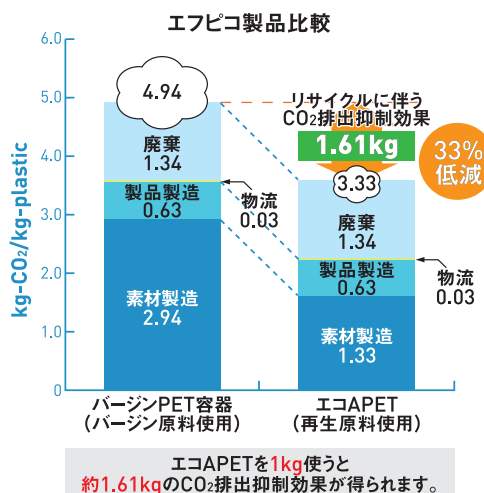
約9.9万トン

### エコリーフ基準をベースにしたバージン製品とリサイクル製品のCO<sub>2</sub>排出比較

#### ■ エコトレー



#### ■ エコAPET



# 障がい者雇用

## ■ 障がいのある従業員は欠くことができない戦力

障がい者雇用をスタートしたのは約30年前。障がいのある従業員は、容器製造とリサイクル事業というエフピコの基幹業務を担う人材として活躍しており、障がいのある従業員を主力とする事業所は、全国に広がっています。



## ■ 2種類の事業内容

障がいのある従業員が担当する業務内容は大きく分けて2種類。スーパーマーケットなどで回収した使用済み容器の選別と簡易食品容器の製造(成形、組立、ウレタンマット貼りなど)です。どちらの事業においても、会社の貴重な戦力となり利益を生み出しています。



### ● 容器の成形加工、包装、検品

ユーザーのニーズに対応し、折箱タイプ容器、発泡トレー、透明トレーの製造において、成形加工、包装・検品・段ボール箱詰めなど一連の工程を担当しています。



### ● 回収トレーの選別

回収した発泡・透明トレーを各エリアの選別センターへ搬送後、手選別でリサイクル不適品を取り除き、適品を再生原料の工程へ送ります。手選別の高い精度が高品質のエコトレー製造を支えています。



## 全国的に展開している障がい者雇用

全国18の事業所で働く障がいのある従業員が、主力となって活躍しています。



エフピコ愛バック(株)西宮工場



エフピコ愛バック(株)山形選別センター



(株)ダックス四国福山工場



(株)ダックス



エフピコ愛バック(株)佐賀選別センター



(株)ダックス四国

### 特例子会社

容器成形 回収容器選別

株式会社エフピコの特例子会社として厚生労働大臣から認定を受け、障がい者の安定的な職場の確保、社会への参加を基本に、健常者と助け合って働いていける場を提供。障がい者に配慮した職場環境を整備するとともに、一人ひとりの無限の可能性を引き出し、その能力を大きな戦力として活かしています。

### 就労継続支援 A型事業

容器組立・ウレタンマット・シール貼り  
回収容器選別 パッケージ事業

長年、社会福祉・地球環境問題にグループをあげて取り組んできた株式会社エフピコが、障がい者の就労の可能性と職域を広げていくことを目的に設立。営利法人としては日本初となる障害者自立支援法(障害者総合支援法)による「就労継続支援A型」の事業所認定を受けています。



# 環境における 取り組み

## ENVIRONMENT

エフピコがトレーのリサイクルをスタートしたのは今から約25年前の1990年のこと。この間にエフピコの容器リサイクルは時代のニーズに合わせて発展を遂げ、今ではPETボトルをリサイクルして容器に再生するまでになりました。平行して環境保全活動も組織的に展開し、各ワーキンググループが長期的なCO<sub>2</sub>削減目標に向けて努力を続けています。エフピコにとって環境における取り組みは対外的なCSR活動であると同時に、高いレベルでの社員の環境保全への意識形成にも大きく貢献しています。



エコトレーをPRしながら走るエフピコの電気自動車



エフピコが展開する使用済み容器のリサイクル活動は、スーパーマーケットなど食品を販売する店舗の方々の協力なしでは成立しません。消費者とエフピコを結ぶ要の存在として、日々ご協力いただいています。

### TOPICS

#### 低炭素杯2015

低炭素杯は一般社団法人地球温暖化防止全国ネット主催による活動で、次世代に向けた低炭素社会の構築をめざすため、全国の学校・非営利団体・企業・自治体などの多様な主体が地域性や団体の特性に応じた温暖化防止の取り組みを紹介し、そのノウハウや情報を共有し全国へ展開する場となっています。当社は『エフピコ方式のリサイクル』を紹介するため企業部門に応募し、審査の結果ファイナリスト39団体に選ばれました。





## ■ エコ・ファースト制度

「エコ・ファースト制度」は、業界トップランナー企業が地球温暖化対策や廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境に関する取り組みを環境大臣に対して約束する制度です。エフピコグループは、2011年に『エコ・ファースト企業』に認定されましたが、新たに2020年度を目標年とした環境保全に対する約束を更新しました。



## ■ エコマークアワード

(財)日本環境協会が設立した表彰制度である「エコマークアワード」の第1回目の最高賞である金賞に、「エフピコ方式による『トレートトレイ』のリサイクル」が選ばれました。エフピコ方式のリサイクルはさらに発展を続けていきます。



## ■ 容器包装3R推進環境大臣賞

リデュース、リユース、リサイクルの「3R」を推進するために、環境省が創設した表彰制度「容器包装3R推進環境大臣賞」の第1回選考において、エフピコは製品部門の最優秀賞に選ばれています。



## ■ 「Fun to Share」キャンペーン

環境省が2014年にスタートした、豊かな低炭素社会の実現を目指し、企業や団体、地域、個人が知識や知恵を共有するキャンペーン「Fun to Share」に参画しています。



## ■ エフピコグループ長期CO<sub>2</sub>削減目標

改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点（工場、配送センター、オフィス）からのCO<sub>2</sub>排出量および特定荷主の責任範囲の物流に伴うCO<sub>2</sub>排出量の合計を以下のように削減することを目標としています。目標達成のため、「エフピコ・エコアクション50」と題した行動指針を掲げ、グループ全社的な「エコバリューチェーン」の構築を行っています。

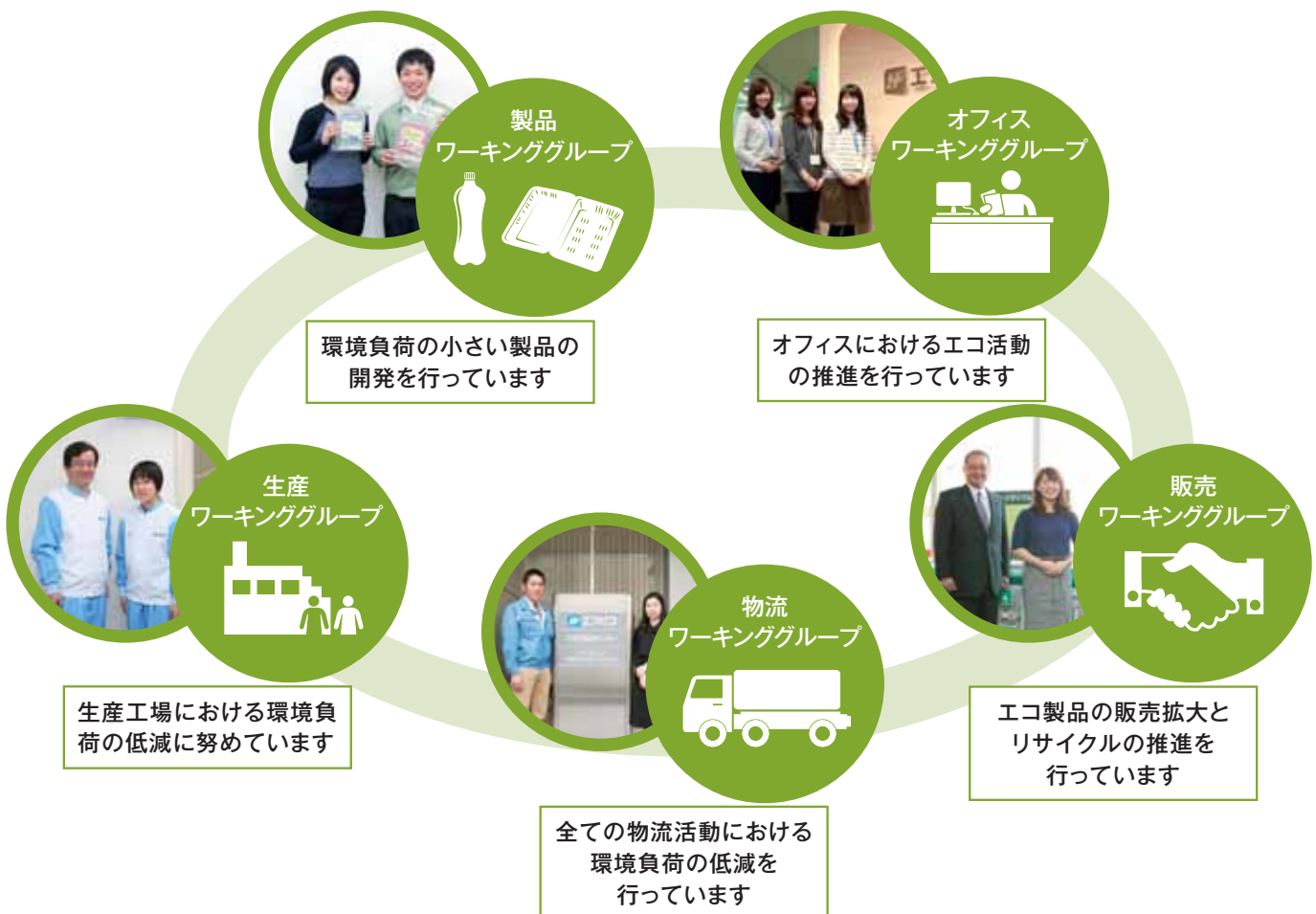
CO<sub>2</sub>排出量を、2020年度までに  
20%削減（2003年度比）

CO<sub>2</sub>排出原単位（販売枚数あたり）を、  
半減（2003年度比）

## ■ エコバリューチェーンの構築によるプロジェクトの推進

グループ全社を挙げての環境負荷の低減には、会社間をまたがり複数の部署が連動してプロジェクトの遂行にあたらなければなりません。同じテーマを持つ複数の部署がひとつのグループとなり、目標達成を目指すことで単独の部署では成し得なかったことも可能になるからです。このようにして構成される各ワーキンググループが別のテーマを持つ他のグループと有機的に連動し、相乗効果を生み出すシステムとしての「バリューチェーン」（価値を生み出す企業内機能の連鎖）を作り上げることにより、エフピコは環境負荷の低減という目標の達成を目指しています。CO<sub>2</sub> 20%削減という大きな目標を達成するために、エフピコでは「エコバリューチェーン」の構築によるプロジェクト推進を行っています。

## ECOバリューチェーン



## ■ 製品ワーキンググループ

製品ワーキンググループでは、ライフサイクルアセスメントの手法を用いて製品ごとの環境負荷の見える化を行うために環境負荷の算定を実施しています。その結果ライフサイクル全体では、容器の素材を作るまでの工程と容器を廃棄処理する工程からのCO<sub>2</sub>排出が非常に大きいことが分かっています。このことからエフピコでは循環型のリサイクルを推進していますが、本ワーキンググループでは少ない素材で製品をつくる方法の開発や素材のグリーン調達などを行っています。

### ● 製品素材の軽量化・薄肉化

発泡トレーにおいては発泡倍率を高めることによる製品の軽量化、透明容器では素材の薄肉化による軽量化など多様な技術の開発で製品の省資源化を行っています。こうした軽量化や薄肉化に伴い容器としての十分な強度を確保するための形状デザインにも配慮しています。いかに少ない資源で製品を製造するかを常に追求しています。

#### ① より薄い素材を開発します



#### ② 素材を軽量化（高発泡化）します

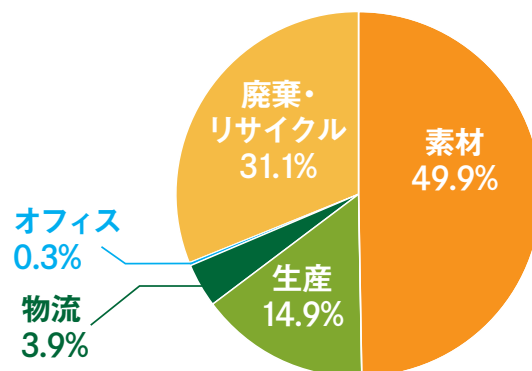


#### ③ 薄肉・軽量化のため強度を高めた形状とします



### ● グリーン調達

グリーン調達とは地球環境保全への取り組みを目的に、安全で環境負荷の少ない原材料、部品、製品を積極的に調達することです。エフピコでは製品が排出するCO<sub>2</sub>を削減するための調達ガイドラインを作成し、グリーン調達の実践を行っています。



※過去数年間の平均値

### ● リサイクル素材の使用

製品の循環型リサイクルを推し進めれば、製品ライフサイクルにおいてCO<sub>2</sub>排出の割合が最も多い素材製造過程での改善を行うことができます。エフピコはエコトレーとエコAPET（透明容器）という2種類のリサイクル製品の開発を継続して行っています。

**■ エコトレー**

○ スーパーなどで回収されたPSP素材（発泡素材）容器の再生品です。何度も繰り返し再生できる循環型リサイクルトレーです。

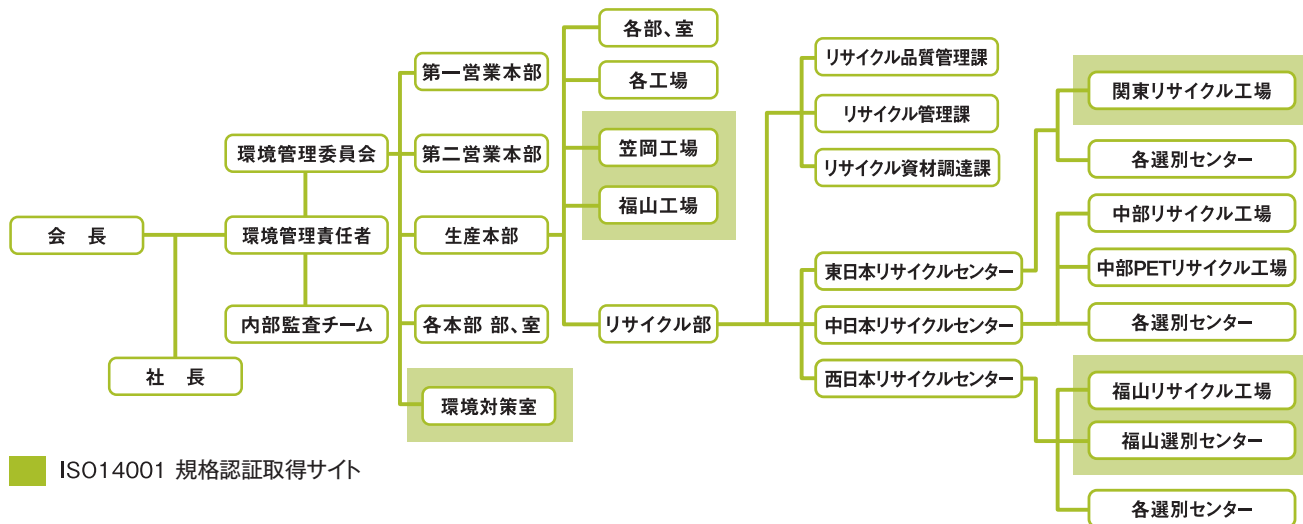
**■ エコAPET**

○ スーパーなどで回収された透明容器やPETボトルを再び透明容器として甦らせました。何度も繰り返し再生できる循環型リサイクル容器です。

APET … 非結晶ポリエチレンテレフタレート

## ■ 生産ワーキンググループ

生産工場、リサイクル工場などCO<sub>2</sub>を多く排出する施設では特に環境負荷低減に取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に継続していくために、社内の取り組みをリードする「環境管理委員会」を組織しています。環境マネジメントシステムの導入により、継続的改善に向けて全社的な活動を続けています。



ISO14001 規格認証取得サイト

## ● 工場データの見える化、省エネ診断、リニューアル

生産工場における環境負荷(主に電力)の見える化は、各工場の状況に合わせて実施しています。設備ごとに設置した計測器から送られてくる数値を工場事務所で中央管理するシステムです(写真)。分単位、日単位、月単位でデータを集めて電力負荷を分析し、CO<sub>2</sub>の削りシロを見つけます。その後、CO<sub>2</sub>削減に向けてさまざまな対策を講じますが、機器や設備の改善が必要と判断された場合には、順次リニューアル工事を実施します。



集中管理システムモニター

## ● 「ものづくりプロジェクト」

「ものづくりプロジェクト」は本来製品の品質向上を目的とし、作業の効率化を高めるためのプロジェクトですが、結果として無駄の削減や省エネにもつながるため環境負荷低減に大きく貢献しています。生産の現場で報告されたさまざまな創意工夫が全工場で共有されることにより、知識と知恵の蓄積が長年にわたって行われてきました。さらにこのプロジェクトの一環としてオペレーターのスキルアップを目的とし「技能塾」という名の研修制度も確立しました。年に2回の研修を行い、プログラム修了者には技能のレベルに従ってワッペンを付与します(写真)。効率化の推進による環境負荷低減も着実に進んでいます。



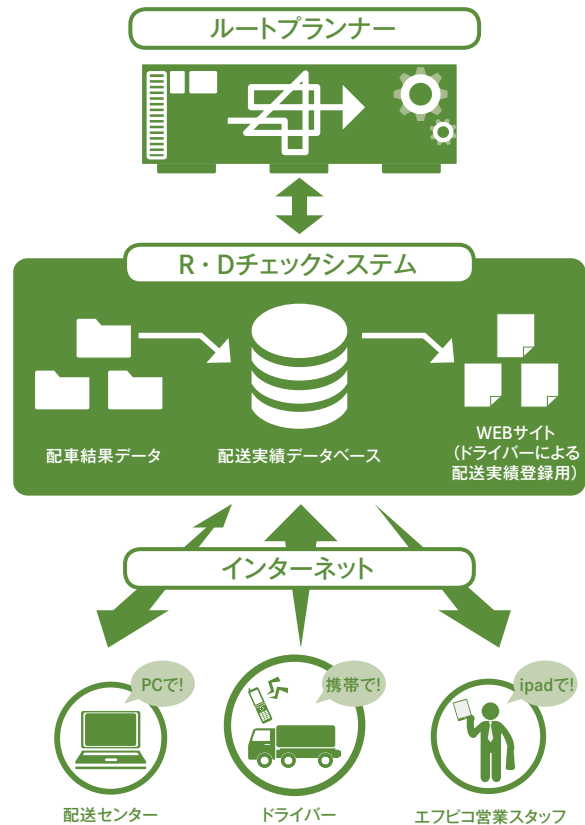
## ● ゼロエミッションと工場内リサイクル

生産工場から排出される産業廃棄物の最終処分率1%未満達成を目標にさまざまな施策に取り組んでいます。産業廃棄物排出量の調査、産業廃棄物処理業者との協働による処理方法や最終処分量(埋立)を把握する体制作り、生産過程で出る端材(右写真)、使用済み容器、梱包材のリサイクルなどを行っています。



## ■ 物流ワーキンググループ

物流活動に伴う車両の運行に関しては、SCMによる受注、生産、リサイクル(回収)も含めたトータルな管理を行っているため、CO<sub>2</sub>を最小限に留めるための、非常に効率的な配車計画となっています。そして物流の現場ではさらにR・Dチェックシステムが効率化の精度をアップしています。SCMが算出した配車計画をベースにルートプランナーが最適な配送ルートの計画を割り出した後は、ドライバーたちが配送計画にどれくらい忠実に配送を行うことができるかをモニターするR・Dチェックシステムが配送の見える化を行います。配送が完了した時間を配送実績データベースに蓄積し、ルートプランナーでの配送計画とのずれを確認することにより、より精度の高い配送計画の立案に努めています。物流ワーキンググループにおいては、最も効率的であることが最も省エネな物流活動となります。



## ● 環境への配慮

物流活動に関わる業務において出来る限りCO<sub>2</sub>を排出しないためにさまざまな配慮と施策を行っています。「エコシップマーク」はCO<sub>2</sub>排出の少ない海上貨物輸送を活用している証、「グリーン経営認証」は、環境負荷の少ない事業運営を行っている証です。また福山市箕沖町のクロスドックセンターの屋上部分には約11,000㎡に3,765枚の太陽光パネルが敷き詰められています。この装置の容量は911kWであり、年間発電量は919MWhです。電力会社のCO<sub>2</sub>発生量を年間約290t削減する効果があります。これは森林面積にすると約810㎡のCO<sub>2</sub>吸収量と同等となります。



## ● 物流改善発表会

定期的を実施している物流改善発表会は、全国の物流関連グループ会社から代表者が集まるほか、テレビ会議システムを使い総勢数百名参加の大規模な会となっています。物流の現場におけるさまざまな改善施策を発表し、情報の共有を行うことを目的としています。こうした改善の取り組みは効率化を向上させ、環境負荷低減に繋がります。またこの会では参加者のモチベーション向上を狙い、発表された施策への評価や表彰も行っています。



## ■ 販売ワーキンググループ

使用済み製品を回収して再生原料とし、再び新しい製品として生まれ変わらせることにより、エコトレーとエコAPETには二重のCO<sub>2</sub>削減効果があります。エフピコの営業スタッフはこれら環境対応型のリサイクル製品を積極的にお客様に薦めています。エコトレーはエフピコが販売している汎用トレーの約70%を占めていますが、さらに拡大できるよう努力を続けていきます。



エコトレーは一度使用したトレーを回収し、リサイクルした原料から再生した環境対応製品。



エコAPETは使用済みの透明容器およびPETボトルをリサイクルした環境対応製品。

## ● 使用済み容器・PETボトル回収拠点の拡大・強化

使用済みトレー・容器の回収はスーパーマーケットなど販売の現場の方々の協力が必要不可欠です。回収の拠点をひとつでも増やす可能性をエフピコの営業スタッフは常に探っています。また回収ボックス、ポスター、DVDなど、回収量をアップさせるためのさまざまなツールもエフピコでは用意しています。店舗により回収しているアイテムが異なるため、数種類のポスターを制作しています。スーパーに来店する消費者の方々の環境保全活動への関心を喚起し、回収率を高めるためにスーパーマーケットとの協働により回収拠点の強化に取り組んでいます。また、右の写真は店舗への設置を提案しているPETボトル回収マシンです。回収量に応じてポイントが貯まる仕組みで、楽しく回収活動に協力していただけるよう工夫されています。



使用済み容器の回収を呼びかけるポスターを用意しています。



## ● 「エフピコフェア」での啓発活動

3日間で約14,000人のお客様をお迎えする「エフピコフェア」においてもエフピコの環境保全活動の紹介を行っています。エフピコが展開しているさまざまな活動をご理解いただき、ひいてはそれがお客様であるスーパーマーケットなどの小売店の方々にとっても大きなメリットであることをアピールしています。お客様との相互理解を深めることも販売ワーキンググループが担う責任です。





## ■ オフィスワーキンググループ

エフピコは同じ地域のグループ会社とは可能な限り同じビルにオフィスを構えるようにしています。グループ会社とのビルシェア、フロアシェアはオフィスのインフラを共有することによるさまざまな形でのエネルギー節約効果が期待できます。オフィスでのエコ活動という面においても、他のグループ会社と協働して効率的に行うスケールメリットもあります。現在では福山、東京、大阪、仙台の拠点においてオフィスインフラのシェアが行われています。



## ● テレビ会議

グループ会社も含めるとエフピコが有する事業所や施設は全国に配置されており、これら多くの施設を繋ぐコミュニケーションツールとしてテレビ会議システムは必要不可欠となっています。テレビ会議により一堂に会しての会議の代替えとできるケースは多く、交通手段を使わないことによるCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。エフピコでは頻繁にテレビ会議システムが活用されており、大きな規模になると全国7、8カ所を結んで100人以上が参加する会議もあります。



## ● 環境セミナー

社員を対象とした環境がテーマのセミナーを行い、環境保全に対する意識を日常の行動に反映していくための啓発を行っています。社員一人ひとりの意識を高めることが大きな成果に結びつくと考えています。



## ● クラウドシステム

大人数がパソコンを使う拠点では、各自のデスクにモニターとキーボードのみを設置したクラウドシステムのパソコンを導入しています。ハードディスクを使用することによる電気使用量を減らしCO<sub>2</sub>の削減に努めています。



クラウドシステム用  
デスクトップパソコン

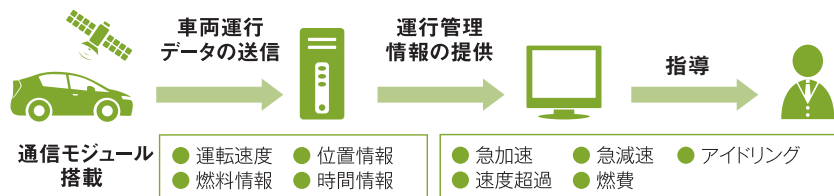
## ● 低公害車

- ・電気自動車： 1台
- ・ハイブリッドカー： 148台
- ・低公害車： 134台
- ・軽自動車および小型車： 8台

※2015年3月末現在

## ● エコドライブモニタリング

必要以上に燃料を使う運転を遠隔監視システムによりモニターし、安全・エコ運転の実践をドライバー（社員）に指導しています。



## ● その他のエコ活動

環境負荷の小さい物品を選ぶグリーン購入、電気使用量の見える化による節電、エリア分けや時間区分による照明と空調の適切化、データで配布可能な帳票や資料などのペーパーレス化、ゴミのリサイクルなど社内でのエコ活動を実践しています。

各ワーキンググループの具体的な取り組み状況の詳細と環境負荷の全体像につきましては、ホームページに掲載しています。



# 社会における 取り組み

## SOCIETY

エフピコのお客様はスーパーマーケットやコンビニエンスストアなど容器を使う企業の方々であるため、普段あまり接する機会のない消費者や地域の方々へは積極的にアプローチをしてコミュニケーションを図るようにしています。食品容器、環境、障がい者雇用、地域社会などエフピコが社会と接点を持っているさまざまな分野においてアクティブに活動を続けています。エフピコは企画し、行動し、声を掛け、声を聞き、社会のなかの一企業市民として何をすべきかを楽しみながら考えています。



小学生を対象とした出張講座での様子



### TOPICS

#### エフピコの従業員が ファッションショーに出演

2014年12月14日、東京都世田谷区にある昭和女子大学のキャンパス内において「ゆうきのつばさ Inclusion Award 2014」が開催され、エフピコグループ企業に勤務する障がいのある従業員5名がファッションモデルとして出演しました。普段着をアレンジしてのファッションショーでしたが、5人とも専門家のアドバイスを受けて大変お洒落な出で立ちで登場してくれました。イベントの様子は<https://www.facebook.com/yuukinotsubasa>でご覧いただけます。





フロアホッケーというユニバーサルスポーツの普及と発展に協力しながら、たくさんの方々と繋がっています。



## TOPICS

### 平成26年度「ダイバーシティ経営企業100選」に選出

「ダイバーシティ経営企業100選」は経済産業省が主催する、ダイバーシティ人材を活かしてイノベーションの創出・生産性の向上等の成果を上げている企業を表彰する制度です。容器製造やリサイクルの現場において、障がいのある従業員が活躍し、企業全体の価値につながっていると評価されました。「ダイバーシティ経営企業」の名に恥じないよう、これからも挑戦者精神をもって進んでいきます。



# エフピコとフロアホッケー

## ■インクルージョンを目指して

障がいのある従業員が多く働くエフピコの職場において、障がいの有無にかかわらず交流することのできる環境をつくりたいと考えていた社長の佐藤にユニバーサルスポーツであるフロアホッケーを提案したのは細川佳代子氏でした(写真右)。2005年に障がい者のオリンピックである「スペシャルオリンピックス」世界大会の長野大会を成功させた後、日本フロアホッケー連盟の理事長としてこのスポーツの普及に取り組んでいた細川氏と佐藤との運命的な出会いにより、エフピコでのフロアホッケー活動は2010年にスタートしました。この活動は社員が行っている他のレクリエーション活動と同様に、エフピコが福利厚生の一環としてサポートしている自発的な部活動です。「面白そうだからやってみれば」と提案したのは社長ですが、その後は従業員の間で徐々に活動が広がっていきました。今では全国に9つのクラブがあり、それぞれの地域の体育館などで定期的に活動を行っています。



フロアホッケーをやっている時は年齢も性別も役職もすべて関係なく、ただ同じチームの仲間同士としてプレーします。エフピコにおけるフロアホッケー活動は単なるレクリエーションというだけではなく、同じエフピコの社員として交流するインクルージョンを目指す取り組みとなっています。

全メンバー 500名、 うち障がい者180名。		エフピコ フロアホッケークラブ山形 (山形県)	
	エフピコ フロアホッケークラブ茨城 (茨城県)		エフピコ フロアホッケークラブ東京 (東京都)
	エフピコ フロアホッケークラブ中部 (岐阜県)		エフピコ フロアホッケークラブ関西 (兵庫県)
	エフピコ フロアホッケークラブ福山 (広島県)		エフピコ フロアホッケークラブ広島 (広島県)
	ダックス四国 (高知県)		エフピコ フロアホッケークラブ佐賀 (佐賀県)

## [ フロアホッケーとは? ]

フロアホッケーは、スペシャルオリンピックスの競技の一つで、カナダでアイスホッケーとリングエッティエ(Ringette)という二つのスポーツから作られた。1チームは最低11人～最大16人までで構成され、ゴールキーパーを含めて6名のプレイヤーがコートで競技を行う。直径20cmの中心に穴の空いた「パック」を「スティック」で操り、相手側のゴールに入れる。通常の木

製のフローリングの上で競技を行う。体力、年齢等によってグループ分けをして、子どもからシニアまで、誰にでも楽しむことができる。

※スペシャルオリンピックスとは、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織。

## ●第9回全日本フロアホッケー競技大会「エフピコ杯」

2014年10月に開かれたこの大会は日本フロアホッケー連盟が毎年開催している全国大会であり、関東地域で初めて開催した大会でもありました。今回は大会をエフピコ杯としてさまざまな面でのサポートを提供し、初めての東京開催となりました。全国から18チーム、約300人の選手、そして約130人のボランティアが参加する大会となりました。エフピコからは4チームが参加しましたが、その他に大会の運営にも携わり、多くのエフピコ社員も事前準備から当日の運営までを担当しました。



## ●第4回ユニバーサルフロアホッケー中国四国大会

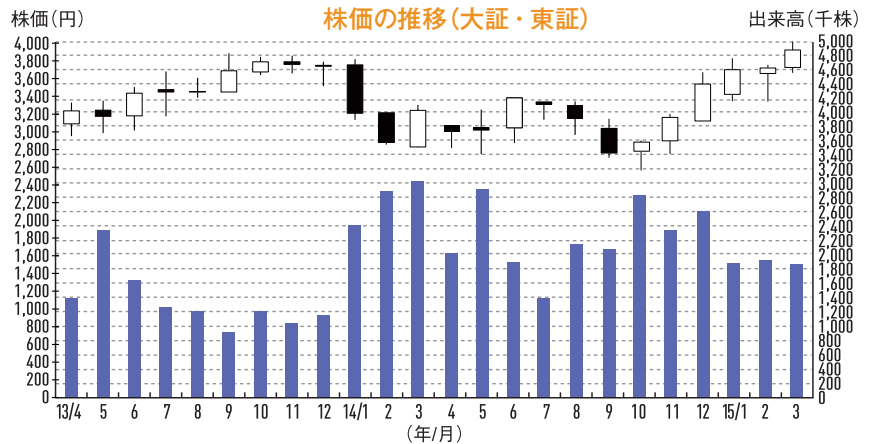
2015年2月に開催されたこの大会はエフピコのお膝元である福山市のローズアリーナを会場とし、参加14チーム、選手と役員が約300名、大会運営ボランティアとしてエフピコグループ社員80名以上が参加しました。「各チームの選手は障がいのある人が半数以上」というローカルルールを設け、障がいの有無を超えた交流の場を実現するという意図を持って開催された大会でもあります。エフピコはユニバーサルスポーツであるフロアホッケーにこれからも積極的に関わっていきます。



# 株主とのかかわり

## ■ 企業価値の拡大

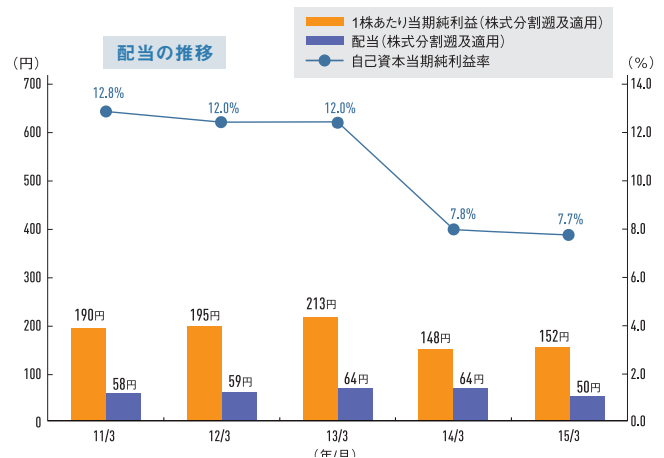
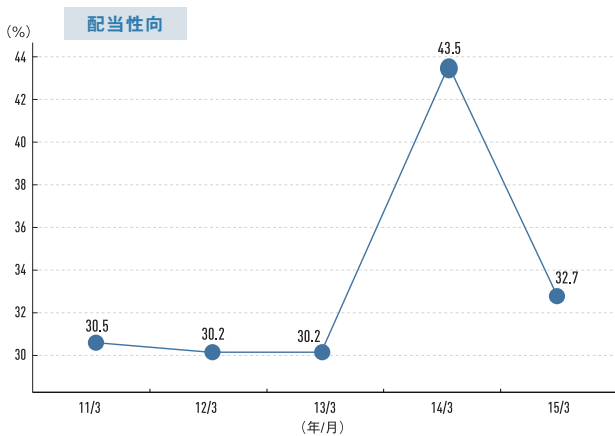
「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針に則り、株主本位の経営を実践しています。グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり純利益225円を目標としています。



※2013年6月まで大阪証券取引所、2013年7月以降は東京証券取引所における株価及び出来高を示しております。  
 ※2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2012年、2013年に関しては、当該株式分割が2012年に行われたものと仮定して株価及び出来高を算定しております。

## ■ 継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆さまへの利益に見合った利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株当たり50円(うち第2四半期期末配当金24円)の配当を実施しました。なお、平成26年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割をおこなっております。



※2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

## ■ 適正な情報開示

エフピコは常に適時・適正・迅速・公平に企業情報を開示しています。有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどはホームページのIRコーナーで開示しています。また、機関投資家やアナリストに対しては、株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、業績や事業内容をより理解していただけるよう努めています。

<http://www.fpco.jp/ir/>

- ・業績ハイライト
- ・IR資料
- ・プレスリリース
- ・アナリスト説明会(ビデオ映像等)
- ・株主総会のご報告
- ・株式情報
- ・電子公告



# 消費者とのかかわり

## ■ スーパーマーケットでのコミュニケーション

エフピコはスーパーなどの店内において、使用済みトレーの回収率アップに向け、消費者の方々を対象とした環境保全への意識啓発活動を行っています。より多くの使用済み食品容器を店頭にお持ちいただくため、エフピコが行っている循環型リサイクル活動を説明し、その効果を実感していただくことで消費者の皆さんの行動に繋げようという試みです。使用済み容器の回収拠点であるスーパーなどでの活動は、消費者の方々とのダイレクトなコミュニケーションの場であり、今後もこの活動を継続して行ってまいります。

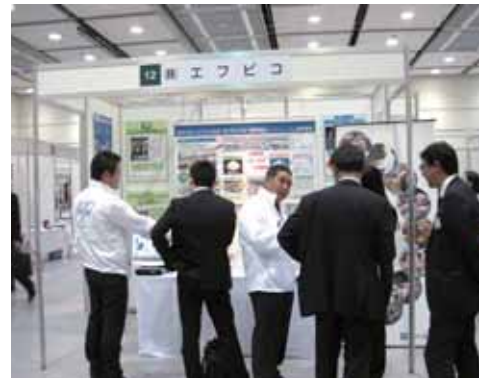


## ■ 各種展示会やイベントへの出展・参加

全国各地で開催されるビジネスや環境をテーマとした展示会やイベントの場を活用し、多くの消費者の方と積極的に触れ合う機会を設けています。今年度はトータルで20のイベントに参加しました。開催地も以下の通り、全国各地にわたっています。

エフピコが2014年度に参加した主なイベント

日付	イベント名	開催地
2014年6月8日	平成26年度「環境の日」ひろしま大会	広島県
2014年9月26日、27日	とっとり産業フェスティバル2014 & 鳥取環境ビジネス交流会2014	鳥取県
2014年9月27日	「結い2101」第5回受益者総会	神奈川県
2014年10月8日～10日	エコテクノ2014	福岡県
2014年10月19日	福山市「第13回リサイクルフェスタ」	広島県
2014年10月19日	長泉町福祉健康まつり	静岡県
2014年10月26日	いざい八尾 環境フェスティバル2014	大阪府
2014年10月26日	やまがた環境展2014	山形県
2014年10月26日	環境フェアいけだ	岐阜県
2014年10月26日	ながさきエコライフ・フェスタ2014	長崎県
2014年11月21日、22日	エコ・イノベーションメッセ 2014inひろしま	広島県
2014年12月7日	ヒューマンフェスタ2014ひろしま	広島県
2015年2月21日、22日	第42回一宮市消費生活フェア	愛知県
2015年3月29日	こどもエコクラブ全国フェスティバル2015	東京都



## TOPICS

### レンジパック「蒸せるんです」のテレビコマーシャル放映

エフピコは今までスーパーマーケットやコンビニエンスストアなど食品の流通に携わる企業の方々をお客様としてきました。しかし110℃までの耐熱性を持ち、本体と蓋が一体となった透明性の高いPPSAという容器の開発により、消費者の方々へその利便性を直接アピールする試みをスタートしました。「蒸せるんです」と名付けたこの容器は、生の食材を入れて電子レンジに入れるだけの簡単な調理を可能とします。またレンジパック「蒸せるんです」はエフピコのホームページで消費者の方々への直接販売も行っています ([http://www.fpc.co.jp/fresh\\_rangedeli.html](http://www.fpc.co.jp/fresh_rangedeli.html))。2015年1月より広島県下の地上波4局で「蒸せるんです」のテレビコマーシャルの放映を始めました。商品の販売とテレビコマーシャルを通して、エフピコはマス媒体を介しての消費者の皆さまとのコミュニケーションを始めました。



## ■ エフピコRiM

エフピコは地元福山市の福山駅近くの商業施設の命名権を2013年に取得しており、「エフピコRiM」という名で地元の皆さんに親しまれています。その7階に市が整備した公共施設である「福山市ものづくり交流館」があり、福山を拠点とする他の企業と共にエフピコも展示コーナーを設けています。製品の展示と一緒にエフピコ方式のリサイクルに関する展示も行い、地域の皆さんに福山発祥のエフピコとはどのような企業なのかをアピールする場とさせていただいています。



## ■ 各地域での社会活動

森林や里山などの自然保護活動や地域での清掃活動などに参加し、各地域での企業市民のひとりとして楽しみながら社会活動を行っています。特に本社のある福山市では、地元のお祭りなどのイベントにさまざまな形で参加。生産と物流の拠点がある山形県内のエフピコグループ敷地内にはグラウンドがありますが、エフピコの社員が使用していない時には地元の野球チームに貸し出すなど、地域住民の方々とのお付き合い積極的に行っています。



## ■ インターンシップや研修の受け入れ

エフピコでは毎年、広島県内の学生をインターンシップ生として受け入れています。「広島県ものづくりインターンシップ事業」に受け入れ企業として参加し、理工学系の学生に基礎技術研究室、製品開発部、生産工場、リサイクル工場などで実地研修をしていただいています。9日間という短い期間ですが、学生にとってものづくりを学ぶ機会であると同時に、就職活動にも意義のあるプログラムとなっています。また、広島県教育委員会が実施する「民間企業等長期派遣研修」の受け入れ企業でもあり、こちらは教職員による半年にわたる長期の研修となります。教育の現場で働いている先生方がエフピコの現場と一緒に働くことは、双方にとって得るものが多い、貴重な機会となっています。



## ■ 出張講座

教育機関や自治体主催のイベント等で環境保全をテーマとした出張講座を行っています。ゴミの減量化や資源のリサイクルというテーマを中心にエフピコの取り組みを具体的に紹介しています。特に広島市においては、広島市教育委員会が主催するプログラムを通して多くの市内の小学校を訪問しています。出張講座は毎年十数カ所で行われ、聴講者は千人を超えています。



# 社員とのかかわり

## 『福利厚生倶楽部』

エフピコでは社員への福利厚生プログラム提供のため、大手企業・官公庁から中堅中小企業まで約8,000社に導入されているアウトソーシング型の「福利厚生倶楽部」と契約しています。各地のリゾート施設利用やリゾートツアー、映画や遊園地など各種娯楽施設の割引利用、スポーツ施設の割引利用、高級レストランの割引利用、さらには育児や介護のサポートのサービスまで幅広く利用できます。エフピコの専用サイトから社員が自分でサービスの申込みをするシステムになっており、プライバシーも守られています。



## 各種レクリエーション活動

社員への福利厚生プログラムのひとつとしてエフピコではさまざまなレクリエーション活動のサポートを行っています。本レポートでも紹介しているフロアホッケーも9つのクラブがありますが、その他にも野球4クラブ、マリンスポーツ、テニスのクラブ活動があり、活動費を補助しています。クラブ員の数では600名を超え、その数は年々増加しています。



## 社員旅行と ハワイ研修

グループ会社全体で4,000人を超える社員がいるため、エフピコでは部署ごとや他部署との合同など、任意のグループでの社員旅行を行っています。社員同士で話し合って行き先を決め、自分たちでプログラムを考えて楽しんでいます。また恒例となっているハワイ研修旅行も毎年実施しています。この研修の参加者はグループ企業も含め、入社10年以上の社員から選抜しており、約30名が会社や部署の垣根を越えて交流する貴重な機会ともなっています。



## くるみんマーク 認定



エフピコは広島労働局長より『子育てにやさしい企業』として認定されています。エフピコの女性社員は結婚後もほとんど離職しないだけでなく、子供が生まれた後の育児休暇取得率も100%です。育児をしながら働く女性社員は、各自の職責に合わせて労働時間を短縮しています。貴重な戦力として女性社員が長く働いていくための施策をこれからも継続して実施してまいります。

## 社員持ち株会

エフピコには社員持株会の制度があります。社員が「持株会」を結成し、給与や賞与から積み立てた資金で自社株式を継続して購入する制度です。普通預金の金利が0.1%にもならないこの時代に、毎月の積立金に対して10%の奨励金が支給されています。小額投資で株主になることができ、社員の長期的な財産形成に役立っています。



## ■ 財務データ

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,153	13,710
受取手形及び売掛金	30,598	32,876
商品及び製品	17,810	17,804
仕掛品	78	94
原材料及び貯蔵品	2,957	3,770
繰延税金資産	1,272	1,340
未収入金	2,634	4,102
その他	527	450
貸倒引当金	△31	△30
流動資産合計	72,001	74,120
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	83,589	97,595
減価償却累計額	△42,757	△46,248
建物及び構築物(純額)	40,831	51,347
機械装置及び運搬具	29,963	35,963
減価償却累計額	△22,231	△25,004
機械装置及び運搬具(純額)	7,731	10,959
土地	31,945	33,256
リース資産	23,952	25,608
減価償却累計額	△10,775	△12,513
リース資産(純額)	13,177	13,095
建設仮勘定	3,348	1,031
その他	19,021	19,109
減価償却累計額	△15,414	△15,247
その他(純額)	3,607	3,862
有形固定資産合計	100,641	113,551
無形固定資産		
のれん	730	1,605
その他	1,085	1,077
無形固定資産合計	1,816	2,683
投資その他の資産		
投資有価証券	3,304	4,085
繰延税金資産	1,444	1,014
その他	1,335	1,225
貸倒引当金	△66	△50
投資その他の資産合計	6,017	6,274
固定資産合計	108,475	122,509
資産合計	180,476	196,629

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	19,231	21,163
短期借入金	9,976	10,702
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
リース債務	3,642	3,950
未払金	5,533	6,370
未払法人税等	1,556	1,686
未払消費税等	326	773
賞与引当金	1,475	1,565
役員賞与引当金	55	44
その他	2,677	2,958
流動負債合計	59,476	64,214
固定負債		
長期借入金	26,777	33,084
リース債務	10,359	10,059
繰延税金負債	14	48
役員退職慰労引当金	1,207	1,206
執行役員退職慰労引当金	-	7
退職給付に係る負債	2,465	2,716
その他	114	159
固定負債合計	40,938	47,282
負債合計	100,414	111,496
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	15,843	15,843
利益剰余金	55,529	59,600
自己株式	△4,939	△4,941
株主資本合計	79,583	83,653
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	553	1,288
退職給付に係る調整累計額	△97	△204
その他の包括利益累計額合計	456	1,084
少数株主持分	21	395
純資産合計	80,062	85,133
負債純資産合計	180,476	196,629

## 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 (連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
売上高	161,121	164,918
売上原価	115,243	118,336
売上総利益	45,877	46,582
販売費及び一般管理費	36,117	37,393
営業利益	9,760	9,189
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	94	74
補助金収入	16	667
受取賃貸料	89	90
スクラップ売却益	229	209
その他	364	317
営業外収益合計	800	1,365
営業外費用		
支払利息	326	297
その他	180	151
営業外費用合計	507	448
経常利益	10,054	10,106
特別利益		
固定資産売却益	14	1
受取保険金	210	-
負ののれん発生益	-	39
段階取得に係る差益	6	-
特別利益合計	231	40
特別損失		
固定資産除売却損	179	135
災害による損失	212	-
段階取得に係る差損	-	80
その他	9	-
特別損失合計	402	215
税金等調整前当期純利益	9,883	9,931
法人税、住民税及び事業税	4,210	3,526
法人税等調整額	△467	64
法人税等合計	3,742	3,591
少数株主損益調整前当期純利益	6,140	6,340
少数株主利益	3	11
当期純利益	6,137	6,329

## (連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	6,140	6,340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	734
退職給付に係る調整額	-	△106
その他の包括利益合計	7	627
包括利益	6,148	6,967
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,145	6,956
少数株主に係る包括利益	3	11

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	9,883	9,931
減価償却費	9,703	11,135
賞与引当金の増減額(△は減少)	△73	55
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△37	△11
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△25
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	72	△39
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	-	7
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	180	260
固定資産除売却損益(△は益)	165	133
受取利息及び受取配当金	△101	△79
支払利息	326	297
受取保険金	△210	-
災害損失	212	-
売上債権の増減額(△は増加)	5,771	△2,172
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,318	△590
未収入金の増減額(△は増加)	△179	△1,356
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,966	1,420
その他の資産・負債の増減額	256	622
未払消費税等の増減額(△は減少)	74	219
その他	803	731
小計	23,563	20,539
利息及び配当金の受取額	101	80
利息の支払額	△335	△289
保険金の受取額	-	164
災害損失の支払額	△2	△127
法人税等の支払額	△5,345	△3,454
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,981	16,912
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△11,568	△18,203
無形固定資産の取得による支出	△485	△405
投資有価証券の取得による支出	△27	△25
投資有価証券の売却による収入	203	175
長期貸付けによる支出	△25	△39
長期貸付金の回収による収入	28	25
その他	108	75
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,766	△18,397
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△3,800	△3,184
長期借入れによる収入	15,000	17,500
長期借入金の返済による支出	△9,241	△8,778
自己株式の取得による支出	△0	△1
リース債務の返済による支出	△3,408	△4,153
配当金の支払額	△2,669	△2,339
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,120	△957
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,093	△2,442
現金及び現金同等物の期首残高	14,060	16,153
現金及び現金同等物の期末残高	16,153	13,710

## ■ 財務データ

### 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,150	15,843	52,062	△4,938	76,117
当期変動額					
剰余金の配当			△2,670		△2,670
当期純利益			6,137		6,137
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	3,467	△0	3,466
当期末残高	13,150	15,843	55,529	△4,939	79,583

	その他の包括利益累計額			自己株式	株主資本合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	546	—	546	18	76,682
当期変動額					
剰余金の配当					△2,670
当期純利益					6,137
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	7	△97	△89	3	△86
当期変動額合計	7	△97	△89	3	3,380
当期末残高	553	△97	456	21	80,062

当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,150	15,843	55,529	△4,939	79,583
会計方針の変更による累積的影響額			80		80
会計方針の変更を反映した当期首残高	13,150	15,843	55,610	△4,939	79,664
当期変動額					
剰余金の配当			△2,338		△2,338
当期純利益			6,329		6,329
自己株式の取得				△1	△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	3,990	△1	3,988
当期末残高	13,150	15,843	59,600	△4,941	83,653

	その他の包括利益累計額			自己株式	株主資本合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	553	△97	456	21	80,062
会計方針の変更による累積的影響額					80
会計方針の変更を反映した当期首残高	553	△97	456	21	80,142
当期変動額					
剰余金の配当					△2,338
当期純利益					6,329
自己株式の取得					△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	734	△106	627	374	1,001
当期変動額合計	734	△106	627	374	4,990
当期末残高	1,288	△204	1,084	395	85,133

# エフピコのあゆみ

## 沿革・表彰

	1月	ホームページを開設
	3月	(財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「通商産業省環境立地局長賞」受賞
	5月	代表取締役社長小松安弘が「藍綬褒章」を受章
	6月	福山リサイクル工場が「ひろしま環境賞」受賞
	8月	「HMRトップセミナー」を開催
1997	9月	社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて「こんな会社を誇りにしま賞」受賞
	10月	日本食糧新聞主催「第6 回日食環境資源協力賞」受賞
	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクル工場が「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
	12月	新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(広島県福山市)を竣工
1998	10月	福山配送センターに新倉庫竣工
	2月	代表取締役社長小松安弘が「第19回毎日経済人賞」を受賞
1999	4月	エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始
	10月	新素材容器「ハイスター」を開発
	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて「内閣総理大臣賞」受賞
	1月	特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県南国市)を竣工
2000	3月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
	7月	関東つくば工場(茨城県下妻市)を稼働開始
	7月	関東下館工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	10月	近畿亀岡工場(京都府亀岡市)を稼働開始
2001	2月	関東第2配送センター(茨城県八千代町)を稼働開始
	7月	「第4回エコライフびわ湖賞」にて「アイデア部門優秀賞」受賞
	11月	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
	11月	東京本社にキッチンスタジオを開設
2002	2月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の再建スポンサーとして会社更生手続き開始
	1月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定(バックドール(株)は2003年5月更生手続終結、中国パール販売(株)は2005年5月更生手続終結)
2003	7月	東日本ハブセンター(茨城県八千代町)完工
	7月	山形工場(山形県寒河江市)を稼働開始
	11月	「ウエステック大賞2003」にて「事業活動部門賞」受賞
2004	3月	東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設
	5月	東北配送センターを山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転
2005	9月	東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
	9月	「愛・地球賞(財)日本国際博覧会協会・日本経済新聞社主催」を受賞
	6月	サンプル受付センターを稼働開始
	6月	特例子会社(株)ダックス佐賀(佐賀県吉野ヶ里町)設立
2006	9月	(株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞
	10月	就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛バック(株)(現エフピコ愛バック(株))設立
	12月	「財小松育英会」設立
2007	2月	関東下館第2工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	3月	就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立
	4月	「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて「製品部門最優秀賞」受賞
1962	7月	福山パール紙工(株)設立。広島県福山市古宮町(現在の霞町)に本社を設置し、PSP成型加工を開始
1968	3月	業容発展に伴い、本社を所在地(福山市曙町)に移転
1971	1月	ウッド組立食品容器の製造を開始
1972	4月	福山配送センター(広島県福山市)を開設
1975	9月	総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立
1976	6月	自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催
1979	7月	配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立
1980	1月	物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
1981	6月	食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
1982	3月	高級食品容器製造のため、定位置成形技術を開発
	4月	東京支店(東京都練馬区)を開設
1983	10月	大型ホストコンピュータを導入し、EDI(電子データ交換)による受発注を開始。PSP製電子レンジ用耐熱容器を開発
1984	5月	代表取締役社長小松安弘がPSP成型加工工業組合理事長に就任
	1月	東京配送センター(千葉県船橋市)を開設
	2月	総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催
1985	2月	大阪支店(大阪府大阪市)を開設。2013年5月、現所在地(大阪市北区中之島)に移転
	5月	福山第二配送センターを開設
	6月	総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催
	11月	関東工場(茨城県八千代町)稼働
1987	1月	ソリッド食品容器の原反生産から成形加工までの一貫生産を開始
	4月	100%出資の子会社エフピー商事(株)(現エフピコ商事(株))を設立
	9月	大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工
	12月	フロンガスを使用したPSPを全廃
1988	3月	カイズファイバー社(米国)を通じ、南ア・ホルデンリミテッド社と技術供与契約を締結。関東配送センターを開設
	12月	ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説をおこなう
1989	1月	CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める
	7月	中部配送センター(岐阜県輪之内町)を開設
	11月	広島証券取引所に株式上場
1990	12月	東北配送センター(山形県寒河江市)を開設
1991	2月	大阪証券取引所市場第二部に株式上場
	4月	バルディーズ研究会「会員部門最高得点票賞」受賞
1992	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて東北リサイクル工場が「平成4年度リサイクル推進功労者賞」受賞
1993	3月	(財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「クリーン・ジャパン・センター会長賞」受賞
1994	10月	関西配送センター(兵庫県西宮市)を開設
1995	4月	物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管
	2月	「兵庫県環境にやさしい事業者賞」受賞
	4月	第22回「エフピコフェア96」を東京で初開催
1996	5月	大阪支店を大阪府豊中市に移転
	6月	「第4 回横浜環境保全活動賞」受賞
	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクル工場が「通商産業大臣賞」受賞

# エフピコのあゆみ

2007	8月	エフピコ八千代センターを稼働開始 エフピコ愛バック(株)佐賀工場(佐賀県神崎市)を稼働開始 「ものづくり大賞」にて「経済局長賞」受賞
	9月	エフピコ愛バック(株)岐阜工場(岐阜県輪之内町)、茨城工場(茨城県坂東市)を稼働開始
	10月	エフピコ愛バック(株)西宮工場(兵庫県西宮市)、山形工場(山形県寒河江町)を稼働開始
	11月	「財小松奨学財団」設立
2008	12月	本社新社屋(広島県福山市)竣工
	2月	退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立
2009	8月	日本経済新聞社と(株)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて「中国ニューオフィス推進賞」を受賞
	3月	第1回ふくやま環境賞「事業所部門」受賞
2010	5月	西関東ピッキングセンター(東京都町田市)稼働
	6月	大洋興業(株)より包材部門を事業譲受 代表取締役会長 小松安弘が「第11回企業家賞」を受賞
	8月	(株)茨城ビジョンリサイクルを設立
	10月	(株)富山陽成社より日本パール容器(株)を事業譲受して、エフピコ日本パール(株)を設立
2011	4月	ユカ商事(株)より包装資材等の商品仕入事業を譲受
	6月	(株)アルライト(現エフピコアルライト(株))を連結子会社化 (株)アイ・ロジック福山ピッキングセンター(広島県福山市)開所
	10月	インターバック(株)(現エフピコインターバック(株))を連結子会社化
	12月	ダイヤフーズ(株)(現エフピコダイヤフーズ(株))を連結子会社化
2012	2月	「エコマークアワード2010」にて「金賞」受賞 代表取締役会長 小松安弘が「第9回波沢栄一賞」受賞
	5月	アイ・ロジック中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)を竣工
	9月	仙台営業所(宮城県仙台市)を移転統合 エフピコ愛バック(株)広島工場が(株)高齢・障害者雇用支援機構より「優秀勤労障害者」部門で表彰受賞
	12月	(株)エフピコ及びエフピコ物流(株)がエコシップ・モーダルシフト優良事業者として「国土交通省海事局長賞」を受賞
2013	11月	PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
	3月	「ワットセンスアワード」にて「アクション部門優秀賞」受賞 エフピコフェア2013「日本全国から即効アイデア盛り沢山〜知恵と工夫百選」を東京国際フォーラムで開催(来場者数13,000人)
	4月	持分法非適用関連会社の(株)石田商店(現エフピコシダ(株))を連結子会社化
	7月	商業ビル「エフピコRiM」のネーミングライツを取得
2014	10月	九州第2配送センター稼働(佐賀県神崎市)
	10月	関西第1配送センター稼働(兵庫県神戸市)
	11月	代表取締役会長小松安弘が「旭日重光章」を受章 八王子配送センター(東京都八王子市)を着工
	6月	使用済みPETボトルから再生樹脂を生産する西日本ペットボトルリサイクル(株)を連結子会社化
2015	8月	福山クロストックセンターを稼働開始(広島県福山市)
	10月	(株)みやこひも(現エフピコみやこひも(株))を連結子会社化
	11月	(株)エフピコモダンバックがエフピコ商事(株)に合併 八王子配送センターを稼働開始(東京都八王子市)
	12月	エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工(広島県福山市)
2015	3月	「ダイバーシティ経営企業100選」に選出

## 環境・リサイクル

1990	9月	エフピコ方式のリサイクルスタート
	12月	笠岡リサイクルセンター稼働開始
1991	10月	関東リサイクルセンター稼働開始
	11月	東北リサイクルセンター稼働開始
1992	3月	エコトレー販売開始
	4月	環境対策室設置
	5月	中部リサイクルセンター稼働開始
	7月	鳥取市が当社と協決して自治体で初めてトレー回収を開始
	9月	九州リサイクルセンター稼働開始
	10月	学校回収スタート、社内のトレー回収スタート

1993	2月	福山リサイクルセンター(広島県福山市)稼働開始
	2月	北海道リサイクルセンター(北海道石狩市)稼働開始
1996	8月	エフピコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得
	11月	沼津リサイクルセンター(静岡県沼津市)稼働開始
1998	4月	関東リサイクルセンターにカートレー自動選別機導入
	7月	工場見学者累計10万人突破
1999	4月	主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001 認証取得
	5月	エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号)
2000	10月	各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更
	11月	関東リサイクル第1工場(茨城県八千代町)稼働開始
2001	9月	福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設
	2月	関東リサイクル第1工場でISO14001 認証取得
2003	3月	岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	4月	関東リサイクル第1、第2 工場を集約 関東リサイクル工場に改称
	5月	佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
	6月	岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
2004	11月	工場見学者 累計20万人突破
	3月	広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録
2005	12月	「トレー to トレー」が第20類・第40類で商標登録(第4322974号)
	4月	CO <sub>2</sub> マネジメント委員会設置
2006	5月	「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号)
	4月	環境経営5ヵ年計画スタート
2007	10月	屋上緑化対応の工場稼働開始(中部第2工場)
	12月	太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始
2008	8月	茨城選別センター(茨城県八千代町)を稼働開始
	10月	西宮選別センター(兵庫県西宮市)、岐阜選別センター(岐阜県輪之内町)を稼働開始
2009	1月	福山選別センター(広島県福山市)を稼働開始 (株)金沢容器リサイクル(石川県金沢市)を稼働開始
	3月	茨城県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
2010	4月	東海選別センター(静岡県長泉町)稼働開始
	9月	佐賀選別センター(佐賀県神崎市)稼働開始
	10月	工場見学者累計30万人突破 山形選別センター(山形県寒河江市)稼働開始 北海道選別センター(北海道石狩市)稼働開始
2011	12月	中部リサイクル・中部PETリサイクル工場(岐阜県輪之内町)稼働開始
	4月	環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
	5月	中部リサイクル工場に導入したPETメカニカルプラントがFDA(米国食品医薬品局)―NOLを取得
	10月	「エコトレー」が山形県のリサイクル製品として認定
2012	12月	再生PET容器「エコAPET」が財団法人環境協会よりエコマーク商品認定を取得
	2月	「エコトレー」が北海道のリサイクル製品として認定
2013	4月	再生PET容器「エコAPET」を上市
	6月	「ボトル to トレー」が第20類・40類で商標登録(第5504851号)
	10月	国際通貨基金(IMF)・世銀総会にてエフピコ方式展示
2014	12月	「エコAPET」が第20類で商標登録(第5543674号)
	10月	山形県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定
2015	2月	岡山県にて「エコAPET」がエコ製品に認定
	3月	茨城県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定
	8月	福山クロストックセンターに太陽光パネル設置

## 編集後記

既にご存知の方も多いと思いますが、首都高3号渋谷線を走ると渋谷と高樹町の間にはエフピコの看板が見えます。この付近は渋滞することも多いので、ドライバーの方は看板の文字を読む機会も少なからずあると思います。この看板を見てどれくらいの方がエフピコに興味を持っていただいたか、ホームページにアクセスしていただいたか、たまに考えてみるがあります。「蒸せるんです」という商品名でエフピコは消費者の方々との直接的なコミュニケーションもスタートしました。これからはCSRという観点からでなく、一般の方々にもエフピコのこともっと良く知っていただきたいという思いで第1号となる「エフピコレポート」を制作いたしました。

「エフピコレポート 2015」を最後までご覧いただきまして誠にありがとうございます。皆さまのご意見を参考に、内容の継続的な改善を図っていきたく思っております。つきましては、当レポートに添えてありますアンケートにご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。



2015年6月  
環境対策室  
ジェネラルマネージャー  
富樫 英治

### 編集方針

- エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。
- CSRに関わるレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン（2012年度版）」を参考にしました。
- 対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日
- 対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

エフピコレポート 2015  
発行日：2015年6月

### ●制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036

東京都新宿区西新宿六丁目8番1号

新宿オークタワー（総合受付36階）

TEL 03-5325-7809

FAX 03-5325-7811

E-mail: Env-FP@fpco-net.co.jp

ホームページ: <http://www.fpco.jp/>

# FPCO Report 2015

To be a company that links  
people with people, people with nature,  
and companies with society.



株式会社エフピコ

- 本 社 〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目13番15号
- 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F
- 大阪支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F
- 営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

TEL (084) 953-1145  
TEL (03) 5320-0717  
TEL (06) 6441-2468

ホームページ <http://www.fpc.jp/>

eメール [Env-FP@fpc-net.co.jp](mailto:Env-FP@fpc-net.co.jp)

